

平成22年度

# 参 与 会

(報告書)



平成23年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構  
高知工業高等専門学校

## 目 次

はじめに	1
1. 平成21年度参与会で出された意見	2
2. 平成17年度～21年度の高知高専の取り組みと課題	3
3. 審議事項	21
4. 高知高専参与会における質問・意見等	22
5. 審議内容等（まとめ）	40



(平成23年2月1日開催)

## はじめに

---

高知高専を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日はお忙しい中、参与会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。この参与会は全国の高専が何年か前に独立行政法人国立高等専門学校機構というものができて、全国の高専が集約されたわけですが。その際に、それぞれの高専で教育・研究活動あるいは学校の運営に関して、外部の皆さま方から意見をちょうだいすると。そういう場として、それぞれの高専に設けられております。本校の将来計画あるいは諸活動につきまして、これまで大変厳しくもまた温かいご意見をちょうだいしてまいりました。参与会で頂きました貴重なご意見を踏まえまして、教育研究あるいは学校運営に努めてまいってきたところでございますけれども、私ども、高知高専が存在感ある高専として評価を得るために、教職員が一丸となって努力しておりますけれども、参与会の皆さま方のご意見を踏まえて、また今後とも努力をしたいと考えております。

平成 16 年度に、先ほど申しましたとおり、国立高等専門学校機構というものができたわけでございますが、国立高等専門学校機構は、文部科学大臣が定めた中期目標というのがありまして、それに基づいて、機構として中期計画というものが定められております。第 1 期は終わりました、第 2 期が 21 年度から始まっております。今年度、22 年度は第 2 期、中期計画の第 2 期でございます。その機構全体の中期計画に沿いまして、私どもも、この高知高専としての将来計画というものを立てておるわけでございます。1 つの計画期間は 5 年間でございますが、今年度は第 2 年目でございます。全国の高専、実は 51 高専、55 キャンパスでございます。私どもとしては 51 分の 1 という認識ではなくて、各高専の事情も異なりますので、よりよい学校として、皆さま方のご意見を踏まえて努力していきたいというふうに考えております。

本日は、高等教育機関としての教育研究あるいは学校運営に関しまして、大所高所から、また地域の高等教育機関として本校のあるべき姿、そういったものなどについて、幅広くご意見を賜りたいと考えております。また後ほど、私、審議事項ということでお話しさせていただきます。本日は長時間でございますけれども、どうかよろしく願い申し上げます。簡単ではございますが、開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。今日は、よろしくお願い申し上げます。

平成 23 年 2 月

高知工業高等専門学校長

船橋 英夫



# 1. 平成21年度参与会で出された意見

---

## 入試関係

- ・ 小中学校への理科教育のための援助など、高知高専の宣伝も兼ねる意味でどんどん実施していただきたい。
- ・ 高専からの進学について、進路保障など他の高等学校より優れている面をもっとアピールするべきである。
- ・ 高専といえば、「あんなことがやれる学校なんだ」と言う「シンボル」的なものが必要である。
- ・ 高専としての認知度をどのように高めるのか、これが売りだという特色を出せるかが大事である。

## 地域連携関係

- ・ OB（校友会）の中でも、定年を迎え母校のために役立ちたいと考えられている方が増えてきているので、今後より一層連携を深めることを考えてほしい。
- ・ 技術科学大学は高専のためにある大学なので高専から積極的に利用・連携していただきたい。また、各高専間の連携やOBの方々との連携というのも次の中期計画の中で、是非積極的に進めていただきたい。
- ・ 高知銀行としても、科学や自然現象に興味を持ってもらえるような科学教室などを高専と連携して実施していきたい。

## 教育関係

- ・ 理系だからこそ、論理的に考えてそれが言葉にできる、コミュニケーションできる、あるいは文章を読んで理解して自分の力にできる語学力が必要とされている。
- ・ 体験からくるものと知識が一緒になるという意味で、短期・長期のインターンシップなどにも力を入れていただければ、グローバル社会に対応した、語学力をもった実践的な技術者が育成できる。
- ・ 最近の入社試験は全国共通で実施する企業が増えている。その観点で言えば学生の評点がコンピュータで一目瞭然になるので、基礎学力はどうしても身に付けておかなければならない。
- ・ 寮生活において、規則正しい生活習慣を学ばせることは、将来社会に出ても通用する人材になるので、引き続き寮生活で学ばせることが大事である。
- ・ 研究費を確保するのが大変になってきている状況であるため、科研費の申請書は全員提出するぐらいを強制しても良いのではないか。

審議内容を踏まえて、大まかに3点、「どうやって高知高専の認知度を高めるか、アピールするか」「高専の良さである人間教育をしながら技術者を育てていく」「科技大やOBなどを積極的に利用し連携を深めていく」などを検討し、今後も魅力ある高専を目指すよう努めてください。

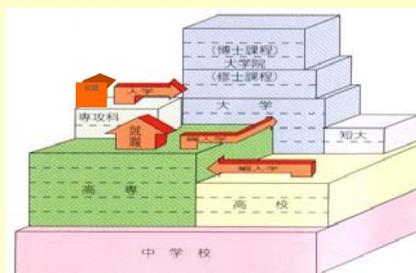
## 2. 平成 17 年度～21 年度の高知高専の取り組みと課題

### 平成17年度～21年度 高知高専の取り組み状況

平成22年度参与会  
(平成23年2月1日)

1

### I 高等専門学校制度および 高知高専の学科構成



2

### (1) 高等専門学校の目的と設置基準

#### 1. 本科

目的: 高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、**職業に必要な能力を育成**することを目的とする。

就業年限: 5年(商船は5年6ヵ月)

学位: 準学士

学生定員: 1学科40人

1学級40人(同一学科でなくて可)の学年制

単位時間: 履修単位(本校での表現)

1単位時間50分(標準)、30単位時間で1単位

学修単位(本校での表現)

上限60単位とし45時間の学修で1単位

講義・演習 15～30時間の授業時間

実験・実習 30～45時間の授業時間

課程修了: 167単位(一般科目75、専門科目82単位以上)

3

### (2) 専攻科の目的と設置基準

#### 2. 専攻科

設置: 高等専門学校には、**専攻科を置くことができる。**

目的: 高等専門学校卒業生又は同等以上の学力を有する者に対して、**精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導**することを目的とし、その修業年限は、**1年以上とする。**

就業年限: 2年(大学評価・学位授与機構の学士認定)

学位: 大学評価・学位授与機構の審査を経て取得可

学生定員: 本科入学定員の10%程度

単位時間: 45時間の学修単位

講義・演習 15～30時間の授業時間

実験・実習 30～45時間の授業時間

課程修了: 62単位(31単位は高専本科卒業後に専門的な内容の授業科目を含めて修得)

4

### (3) 高等専門学校の設置の現状

#### 1. 本科

学校数: 国立51校、公立3校、私立3校

平21年10月1日高度化再編(工業高専→高専)

仙台高専(宮城工業/仙台電波)

富山高専(富山工業/富山商船)

香川高専(高松工業/詫間電波)

熊本高専(八代工業/熊本電波)

学生数: 5万6千人(1学年 約1万1千人)

進路: 卒業生の50%強が就職、40%強が進学

進学者の約20%が豊橋、長岡技科大へ、

約40%が技科を大除く大学へ、

約40%が高専の専攻科へ

データは長谷川 淳資料より  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1290934.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1290934.htm))

5

### (4) 専攻科設置の現状

#### 1. 専攻科

設置数: 国立51校、公立3校、私立2校

学生数: 3千人(1学年 約1500人)

進路: 修了生の2/3が就職、1/3が大学院へ進学

学位資格: 学士

(全専攻科が大学評価・学位授与機構の認定資格)

学位: 修了生のほとんどが学士を修得

JABEE: ほとんどの高専が、本科4、5年と専攻科課程について日本技術者教育認定機(JABEE)の認定(ワシントン・アコードを通じて国際的通用性)

データは長谷川 淳資料より  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1290934.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1290934.htm))

6

(5) 高知高専の学科構成と定員

略号	学科名称〔()内は3年生以上〕	定員
M	機械工学科	40
E	電気情報工学科(電気工学科)	40
C	物質工学科	40
Z	環境都市デザイン工学科 (建設システム工学科)	40

略号	専攻名	定員
SME	機械・電気工学専攻	8
SC	物質工学専攻	4
SZ	建設工学専攻	4

7

(6) 高知高専学生数〔()女子, []休学, <>留学生、内数〕

	1年	2年	3年	4年	5年	計
M	42 (1) [] <>	48 (1) [] <>	45 ( ) [] <>	36 (1) [] <2>	35 (1) [] <2>	206 (4) [] <4>
E	42 (4) [] <>	52 (3) [] <>	46 (6) [] <>	41 (1) [] <1>	41 (4) [] <1>	222(18) [] <2>
C	42(18) [] <>	51(19) [1] <>	49(20) [] <1>	37(13) [] <>	45(20) [] <1>	224(90) [1] <2>
Z	42(12) [] <>	51(13) [] <>	43 (9) [] <>	35 (4) [] <>	36 (8) [2] <>	207(46) [2] <>
合計	168 (35) [] <>	202(36) [1] <>	183(35) [] <1>	149(19) [] <3>	157(33) [2] <4>	859(158) [3] <8>

数字はH23.1.1現在  
8

(7) 専攻科の学生数〔()女子, <>留学生、内数〕

専攻名	1年	2年	計
機械・電気	16(1)	13(2)	29(3)
物質	13(3)	5(1)	18(4)
建設	2	6<1>	8<1>
合計	31(4)	24 (3) <1>	55 (7) <1>

数字はH22.4.1現在

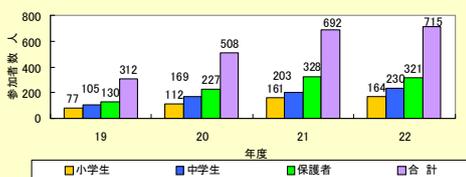
9

Ⅱ 高知高専の認知度を高める取り組み

- (1) オープンキャンパス
- (2) 出前授業
- (3) キャンパスアドベンチャー2010
- (4) 情報発信
- (5) 体験入学
- (6) 学校紹介
- (7) 中学校-高専連絡会議
- (8) 認知度を高める取り組みの現状

10

(1) オープンキャンパス



11

(2) 出前授業



H22の数字は12月 末現在  
12

### (3) キャンパスアドベンチャー2010

コスモ・バイオ(株)様から助成金および実験キット提供  
 平成22年11月6日(土)、7日(日) 星暉祭(高専祭当日)  
 小学1年生～中学3年生対象  
 「小学生ロボコン」  
 「千分の一秒の世界を観測しよう！」  
 「動くスライム！光るスライム！」  
 「生き物の設計図～遺伝子とはなんだろう！？～」  
 「紙モデル住宅をつくろう！」



13

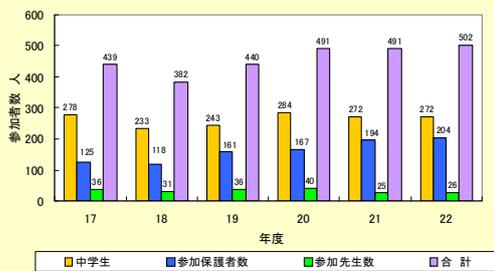
### (4) 情報発信

#### 高知新聞掲載記事

- 平成22年 5月19日 高知高専に初のOG会
- 平成22年 6月21日 明德初めて四国制す  
高専、女子高知商3位
- 平成22年 7月16日 津波 沖合で把握せよ
- 平成22年 8月 2日 iPad使い“授業” 高知高専
- 平成22年10月18日 熱戦！高専ソフト開発
- 平成22年12月 9日 新聞感想文で最優秀  
兼松さん(高知高専)

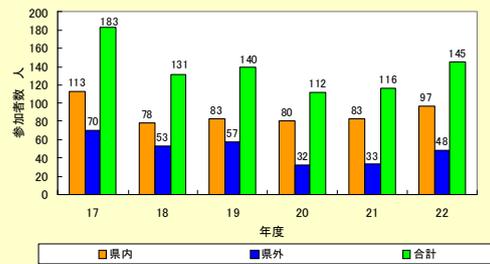
14

### (5) 体験入学



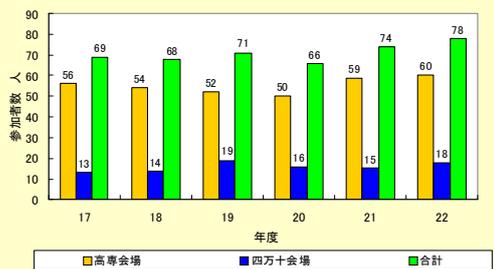
15

### (6) 学校紹介



16

### (7) 中学校-高専連絡会議



17

### (8) 認知度を高める取り組みの現状

- 出前授業は高専の知名度を高める地道な活動  
(負担の分担、ゆとり教育の見直しの影響  
特定小中学校への集中が課題)
- 県内中学校への学校紹介は定着  
(学校紹介の県外中学校対象範囲が課題)
- 体験入学と志願者数の相関有(一層の充実)
- 中学校-高専連絡協議会は定着  
(情報発信、意見交換の場として充実をはかる)

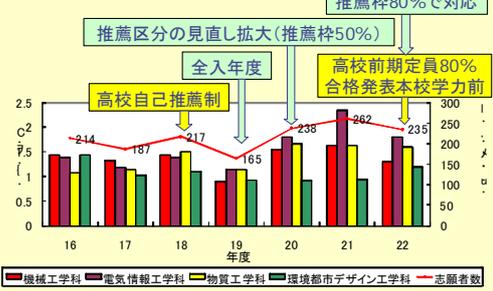
18

### Ⅲ 志願者数の推移

- (1) 志願者数の推移
- (2) 推薦と学力志願者の内訳
- (3) 高知県内と高知市内からの志願者
- (4) 今後5年間の高知県と高知市内中学生数
- (5) 女子入学志願者・入学者数
- (6) 平成20年度以降の入試制度の要点
- (7) 平成23年度の推薦基準
- (8) 平成23年度の入試日程
- (9) 志願者確保と課題

19

#### (1) 志願者数の推移



20

#### (2) 推薦と学力志願者の内訳



21

#### (3) 高知県内と高知市内からの志願者

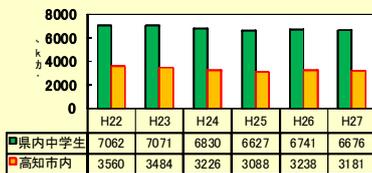


(人数は私立在籍者約1150名を除いた実質的数字)

22

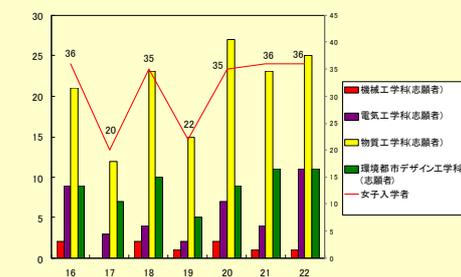
#### (4) 今後5年間の高知県と高知市内中学生数

(数字は私立中学在籍者約1150名を含む)



23

#### (5) 女子入学志願者・入学者数



24

### (6) 平成20年度以降の入試制度の要点

- 平成20年度(推薦枠50%)
  - 特別推薦A、特別推薦B、一般推薦の3推薦制
  - 推薦志願者の学力受験の義務化を外す
- 平成22年度(推薦枠80%)
  - 特別推薦Aと一般推薦に志望理由書と作文を課す
  - 学力会場に本校、四万十に三好を加え3会場
- 平成23年度(推薦枠80%)
  - 特別推薦Bと一般推薦を一本化し推薦B
  - 推薦は、推薦A、推薦Bで実施
  - 学力受験時に改めて志望学科選択(第4志望まで)
  - 学力会場は上記3会場に宇和島を加え4会場

25

### (7) 平成23年度の推薦基準

- 推薦A
 

第1学年、第2学年が5段階評定、第3学年が10段階評定の場合、130点以上であって学業成績優秀(国語、社会、数学、理科、英語のうち、3教科以上の評定が8以上)またはクラブ活動の実績が顕著であるもの。(推薦書、調査書、志望理由書、作文、面接)
- 推薦B
 

ものづくりに興味があり、第1学年、第2学年が5段階評定、第3学年が10段階評定の場合、110点以上、(推薦書、調査書、志望理由書、実験・実習課題、面接)

26

### (8) 平成23年度の入試日程

月日	公立高校	高知高専
12月17~24日		推薦選抜 出願期間
1月 8~ 9日		推薦選抜A(1月8日に実施)
1月10日		推薦選抜B
1月17日		推薦選抜 合格発表
1月18~20日	前期選抜 出願期間	出願可
1月24~26日	前期選抜 志願先変更期間	合流しなかった場合は学力出願
1月31日		入学確約書提出
2月 2~ 9日		学力選抜 願書送
2月 8~ 9日	前期選抜(学力検査、面接)	
2月16日	前期選抜 合格発表	
2月20日	高専学力受験しない場合辞退願	学力選抜
2月21日	入学確約書提出期限	
2月24日		学力選抜 合格発表
2月23~25日	後期選抜 出願期間	出願可
3月1~4日		入学手続期間
3月10日	後期選抜(学力検査、作文、面接)	
3月16日	後期選抜 合格発表	
3月17日	高専に入學しない場合辞退願	合格者登校日

27

### (9) 志願者確保と課題

- H19年度165名を受けH20年度に推薦入試制度改革  
H20年度238名、H21年度262名、H22年度235名
- 推薦入試制度改革は志願者確保の面で効果
- 中学生の立場に立ち県立高校入試制度との調整
- 高知市内(生徒数が1/3強(私立除))の志願者確保
- 推薦志願者が90%強という現状の捉え方
- 志願者に占める女子生徒の比率の増加
- 入学者の基礎学力確保(230名以上の志願者確保)

28

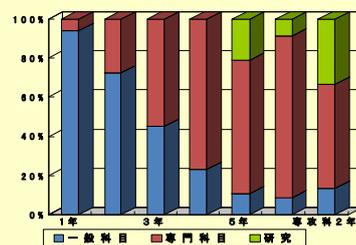
## Ⅲ 教育課程と補習体制

- カリキュラムの年次配置
- 学科改組とカリキュラム再編
- 補習授業
- 混合学級導入目的
- 混合学級の受けとめ方(学生)
- 混合学級の受けとめ方(教員)

29

### (1) カリキュラムの年次配置

学年進行にともない専門科目の比率が高いくさび形カリキュラム



30

## (2) 学科改組とカリキュラム再編

- 学科改組(平成21年度)
  - 電気工学科→電気情報工学科
  - 建設システム工学科→環境都市デザイン工学科
- 学修単位導入による教育課程の再編(H20より)
  - 各学科がカリキュラム改訂、現在学年進行中
- 混合学級制度導入(H20より)
- 演習授業の整備(H20より)
- 補習にTA制度導入(H20より)
- 高知大学との単位互換(H20より)

31

## (3) 補習授業

- 1年生成績不振学生を対象
  - 数学A、数学B、英語(時間割に記載、毎週)
  - 定期試験結果など参考にクラス編成
  - 専攻科生によるTA制度を導入(20より)
- 2年生対象の補習を導入(H21後期より)
- 4年生・5年生を対象(大学編入学対策)
  - 物理演習、化学演習、英語演習(4年生)
  - 数学特論(5年生)、H21より物理演習でTA

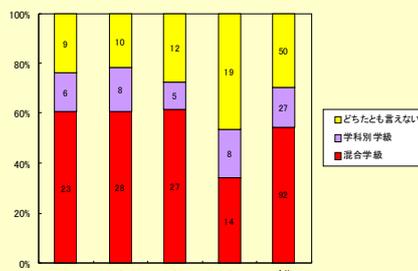
32

## (4) 混合学級の導入(平成20年度より)

- 学科を超えた交流、他学科の学習を理解
- 専門学科比、男女比を均一化した4クラス編成  
(21年度は200名受け入れ、40人、5クラス運営)
- 学年主任(総合科学科教員)、担任(総合科学科教員4名)、副担任(専門学科教員4名)による担任団
- 学年担任団としての共通理解にもとづくクラス運営
- 学生は学生交流面から評価

33

## (5) 混合学級の受けとめ方(現3年生)



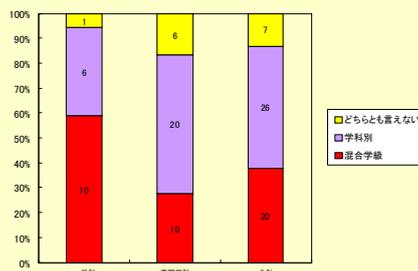
34

## (5) 混合学級の受けとめ方(現3年生)

- **メリット**
  - 学科を越え友人ができ学科の情報交換ができる
  - 5年間同じクラスメートという点が解消される
  - 学科別女子学生のアンバランスが解消される
- **デメリット**
  - 学科意識が薄くなり、2年次に学科クラスとしてまとまるのに時間を要す
  - 専門を学びたいと入学したが専門意識が薄れる
  - 1年では5年間同じクラスの問題解消にならない

35

## (6) 混合学級の受けとめ方(教員)



36

### (6) 混合学級の受けとめ方(教員)

#### ● メリット

学科を越えた友人や専門学科の情報交換ができる  
女子学生の少ない学科のバランスが取れる  
5年間同じクラスメートという点が解消される

#### ● デメリット

1年生で専門意識を持たせることが阻害される  
学科別になったときのリーダーの育成が困難である  
共通試験のため学科に応じた指導が困難である

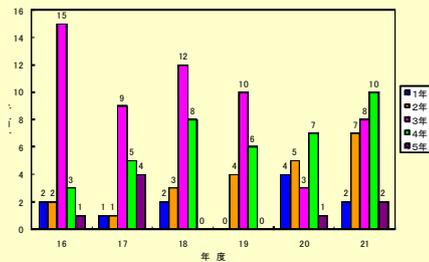
37

### IV 本科学生の動向1

- (1) 学年別退学者の推移
- (2) 学年別留年生の推移
- (3) 本科の退学者と留年生の推移
- (4) 進級に関する現状

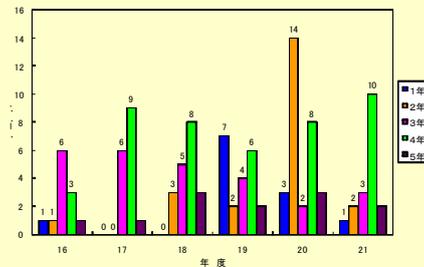
38

### (1) 学年別退学者の推移



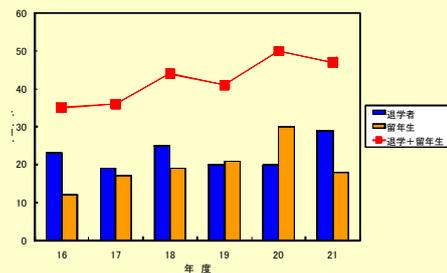
39

### (2) 学年別留年生の推移



40

### (3) 本科の退学者と留年生の推移



41

### (4) 進級に関する現状

- 退学者はH17-H21年平均で22.6名(H16-20で21.4)
- 留年生はH17-H21年平均で21.0名(H16-20で21.0)
- 退学者と留年生は増加傾向
- 学力, メンタルヘルス, 学習障害的要因など  
多様な要因と対応策
- 1、2年次の補習強化(数学、英語、物理、指導にTA)

42

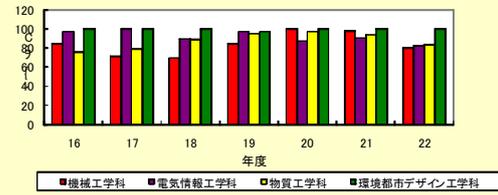
#### IV 本科学生の動向2

- (1) 4年生のインターンシップ
- (2) 就職、進学比率
- (3) 大学、専攻科への進学
- (4) 本科の求人数
- (5) 主な進学先
- (6) 主な就職先
- (7) 主な就職先の地域
- (8) 進路の現状

43

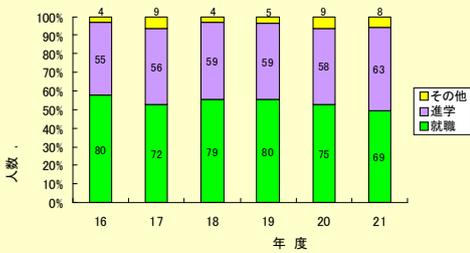
#### (1) 4年生のインターンシップ

高知高専における4年生でのインターンシップ  
(夏休み期間中に実施, 5~10日間, 選択単位1~2)



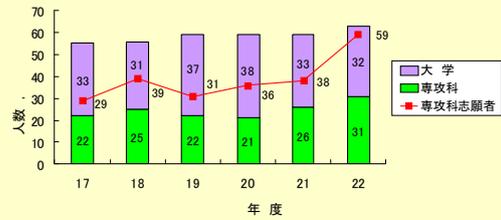
44

#### (2) 就職、進学比率



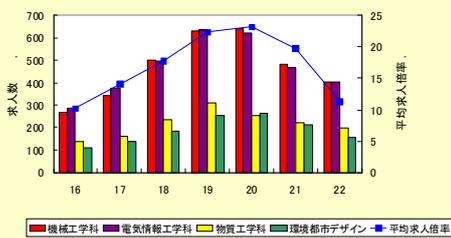
45

#### (3) 大学、専攻科への進学



46

#### (4) 本科の求人数



47

#### (5) 主な進学先(H17-21)

- 27名:豊橋技術科学大学
- 20名:高知工科大学
- 15名:岡山大学
- 14名:長岡技術科学大学
- 8名:東京農工大学
- 6名:愛媛大学, 筑波大学
- 5名:広島大学, 神戸大学, 香川大学
- 6名:筑波大学
- 4名:九州工業大学
- 3名:京都大学, 高知大学, 長崎大学
- 2名:大阪大学, 山口大学

48

(6) 主な就職先(H17-21、4名以上)

15名: 四国電力(株)  
 8名: (株)技研製作所, 西日本旅客鉄道(株)  
 7名: 大阪ガス(株)  
 6名: 関西電力(株), (株)コベルコ技研, 日東電工(株)  
 5名: 旭シンクロテック(株), 兼松エンジニアリング(株), 高知市  
 4名: 旭化成(株), (株)カネカ, 高知県, (株)ジャスト西日本  
 中外製薬工業(株), 中部電力(株), 東燃ゼネラル石油(株)  
 (株)日本触媒, 日本山村硝子(株), (株)ミロク製作所

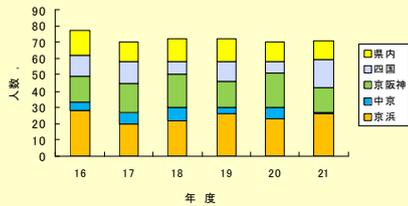
49

(6) 主な就職先(H17-H21、3名)

大林道路(株), (株)花王, 四国行政システム(株),  
 四国情報管理センター(株), 大日精化工業(株)  
 ダイキン工業(株), 中外テクノビジネス(株), 東レ(株)  
 (株)トクヤマ, 日新電機(株), 日本電産(株)  
 パナソニックエレクトロニックデバイス津山(株)  
 前田道路(株), 三菱化学エンジニアリング(株)  
 (株)名南製作所

50

(7) 主な就職先の地域



過去6年間(H16~21)の平均  
 京浜31%, 京阪神23%, 四国15%, 県内17%

51

(8) 進路の現状

H22年度の求人数はH21年比で約16%減  
 H17-21の就職比率53%、進学比率42%、その他5  
 (その他は、自営、専門学校進学、進学浪人など)  
 就職希望者はほぼ全員が就職(H22年度は97%が内定)  
 地域は、京浜31%、京阪神23%、県内17%、四国内15%  
 進学者の内、大学編入学は68%、専攻科が32%  
 (平成22年度90%が進路決定)  
 就職希望者、進学希望者の一部は採用・入学試験で苦戦  
 編入学希望学部が多様化と編入学浪人(毎年数名)

52

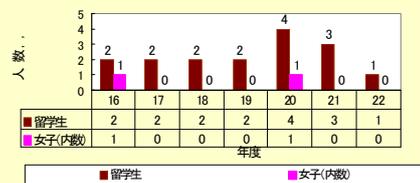
V 留学生および編入生の現状

- (1) 留学生の受け入れ
- (2) 編入学生の受け入れ
- (3) 留学生および編入生の進路
- (4) 留学生および編入生受け入れの現状

53

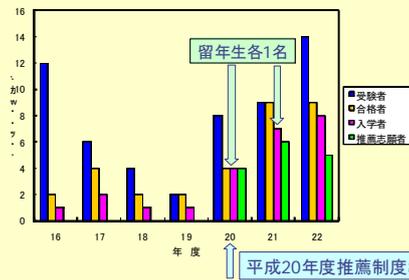
(1) 留学生の受け入れ

5年間平均2.4名/年



54

## (2) 編入生の受け入れ



55

## (3) 留学生および編入生の進路

卒業	留学生の進路	卒業	編入生の進路
H16	大阪大学	H16	高知高専専攻科 大林道路
H17	茨城大学 徳島大学 広島大学	H17	高知高専専攻科
H18	佐賀大学 筑波大学	H18	九州工業大学 高知工科大学
H19	横浜国立大学 神戸大学	H19	
H20	東京農工大学 高知高専専攻科	H20	高知高専専攻科
H21	電気通信大学	H21	高知工科大学 四国電力 JR西日本

56

## (4) 留学生および編入生の現状

### ■留学生

留学生の受入は平均して2.4名程度  
生活習慣、年齢などに起因する生活指導の困難性  
全員卒業し大学へ編入学、特別科目の開設と労力

### ■編入学生

卒業後の進路は就職、大学編入学、専攻科  
H20に推薦制度導入、志願者・合格者が増加  
留年の事例、推薦基準の見直し  
特別科目のなど受入れ体制

57

## VI 専攻科の現状

- (1) 専攻科修了生の就職、進学者数
- (2) 専攻科修了生の進学大学(H17-H21)
- (3) 専攻科修了生の就職企業(H17-H21)
- (4) 専攻科修了生の就職地域
- (5) H12~H20入学者の修了と学位取得
- (6) 専攻科の現状

58

## (1) 専攻科修了生の就職、進学者数



59

## (2) 専攻科修了生の進学大学(H17-H21)

- 7名 : 奈良先端科学技術大学院大学
- 6名 : 徳島大学大学院
- 4名 : 大阪大学大学院
- 3名 : 豊橋技術科学大学院大学, 長岡技術科学大学院大学
- 2名 : 九州工業大学大学院, 名古屋大学大学院, 北陸先端科学技術大学院大学
- 1名 : 東京工業大学大学院, 静岡大学大学院, 名古屋工業大学大学院, 京都大学大学院

60

### (3) 専攻科修了生の就職企業(H17-H21)

■2名就職

兼松エンジニアリング(株)  
富士電機システムズ(株)

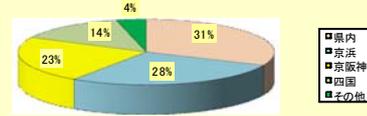
■県内地方公務員(高知県, 高知県警舎) 8名

■高知県内企業

エレクトリックパーツ高知(株), 四国開発(株)  
土佐電子(株), パシフィックソフトウェア開発(株)  
福留開発(株), (株)ミロク製作所など

61

### (4) 専攻科修了生の就職地域(H17-H21)



過去6年間(H16~21, 79名)

62

### (5) H12~H20入学者の修了と学位取得

専攻	入学者数	修了者数
ME	94	92*1
C	43	42
Z	54	48*2

\*1 平成21年度に休学(海外留学)、復学した学生1名を除く  
\*2 建設工学専攻退学者は公務員等への進路変更者

専攻	修了者	試験未受験者	不合格者	学位取得者
ME	92	2	1	90*1
C	42	0	0	42
Z	48	0	0	48

\*1 小論文試験不合格者は再試験で合格  
この他に選考で未受験者の者が1名いるが、再試験で合格

63

### (6) 専攻科の現状

- 本科同様に就職希望者はほぼ100%就職先決定
- 大学院進学者は修了生の35%
- 県内就職比率は31%と京浜地区の28%を上回る
- 地方公務員になる者が8名、県内就職比率を高める
- 就職先は特定の企業に集中することがない
- 本科に比較して将来を考えた学生生活、就職活動
- 自由応募で合格できる実力の育成
- 進学する大学院のベスト3は、  
奈良先端科学技術大学院大学  
徳島大学大学院、大阪大学大学院である

64

## Ⅶ 学生支援

- (1) 入寮希望者と寮生数
- (2) 寮の施設整備
- (3) 授業料免除者数
- (4) 奨学生数
- (5) 学生相談室
- (6) 進路支援室
- (7) 課外活動
- (8) 学生支援の現状

65

### (1) 入寮希望者と寮生数



H22年度 寮生総数: 469名, 女子: 80名(内数)

1年生: 141名, 2年生以上: 328名

※ 本科生の54%が寮生

66

## (2) 寮の施設整備

### ■平成20年度

5号館改修(第Ⅰ期, 女子寮化のためトイレ, 浴室改修他)

### ■平成21年度

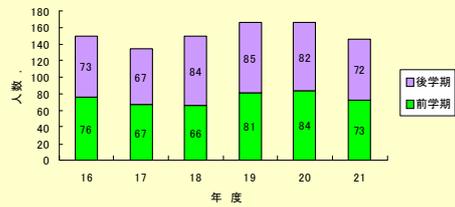
5号館改修(第Ⅱ期, 空調用電源工事他,  
1, 2号館, 女子寮を含む)

### ■平成22年度

6号館改修(身障者対応のトイレ及び風呂・  
玄関入口スロープ設置)  
1・2・5・6号館(リースエアコン設置)

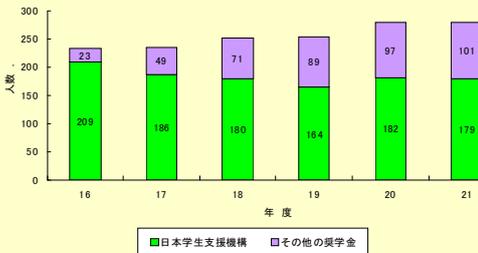
67

## (3) 授業料免除者数



68

## (4) 奨学生数



69

## (5) 学生相談室

学生相談室: 総合科学科棟1階保健室西隣  
 支援概要: 学生相談員(各科教職員9名と看護師),  
 カウンセラー, 精神科医による  
 学習・生活・精神面などの個別相談  
 相談日: 相談員は月～金の昼休みと放課後  
 カウンセラーは金曜日  
 精神科医は月1回  
 健康相談: 保健室にて看護師対応  
 特別支援: 特別な支援が必要な場合は, 機構へ  
 申請により専門家の派遣(H21から)

70

## (6) 進路支援室

### 進路支援室

図書館1階コモンズルーム

### 支援概要

1～3年生は特別活動を利用したキャリア講座  
 第4回県内企業セミナー&企業合同説明会  
 (平成22年 9月30日)  
 主に5年生, 専攻科1年生対象の企業説明会  
 (平成22年12月3日)  
 4年生対象の就職フォーラム(平成23年 1月13日)

71

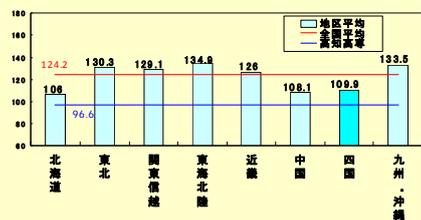
## (7) 課外活動(全国高専総体の成績(1))

年度	団体競技	結果	個人競技	結果	団体競技	結果	個人競技	結果
平成17年度	バレーボール 女子	優勝	男子走高跳	優勝	バレーボール 男子	優勝		
	剣道	優勝			ソフトテニス	優勝		
	ハンドボール	準優勝			卓球	準優勝	男子60kg級	2位
					サッカー	準優勝	男子200m個人バドミントン	3位
平成18年度	バレーボール 女子	3位	男子走高跳	優勝	卓球	優勝	男子5000m	3位
	卓球	3位	男子三段跳	2位	ハンドボール	優勝	ソフトテニス	
					卓球	準優勝	男子ダブルス	2位
					柔道	準優勝		
平成20年度					バドミントン	準優勝	男子	3位
							男子100m背泳ぎ	2位

72



(2) 平成21年度到達度試験結果(物理)



H21物理(7領域350点満点) 各地区と本校の平均点  
**全国124.2点, 高知96.6点**

(2) 平成21年度到達度試験結果  
 (H19~H21年度の平均点比較)



数学は8領域400点満点, 物理は7領域350点満点

(3) 専攻科生のTOEICスコア  
 (年2回本校で実施のIP試験結果の平均)



(4) 外部評価

- ▶ 参与会(毎年実施)
- ▶ 企業, 卒業生へのアンケート  
 (H19年度、平成22年度実施)
- ▶ 機関別認証評価(7年以内, H17に認証済)
- ▶ 教育の実施状況等の審査(7年毎, H17に受審)
- ▶ 日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定

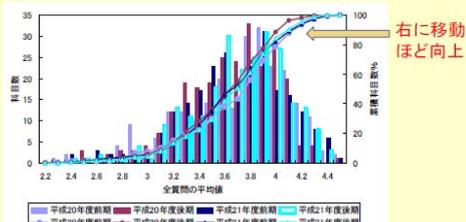
(5) JABEE認定

- 平成15年4月15日 建設工学専攻認定
- 平成16年5月10日 機械・電気工学専攻認定  
物質工学専攻認定
- 平成20年5月 8日 建設工学専攻認定継続  
(2007.4.1~2012.3.31)
- 平成21年4月23日 機械・電気工学専攻認定継続  
(2008.4.1~2014.3.31)  
物質工学専攻認定継続  
(2008.4.1~2011.3.31)
- 平成23年 物質工学専攻中間審査受審

(6) FD活動

1. 教員による授業評価アンケート
2. 教員による授業参観
3. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)による大学教育力の向上
4. 新任教員のFD研修(平成21年度から実施)
5. 1年生の学習理解度調査(平成21年度から実施)
6. 四国地区高専共同事業FD研修会  
 平成21年度本校において実施分野  
 機械・材料系(発表6件参加教員15名)  
 建設系(発表5件、参加教員12名)

### (7) 学生による授業評価



- ◆ 平成20年度:後期は平均4.2以上の科目数減少、前期より評価が下がる
- ◆ 平成21年度:20年度と同じ傾向、前期と後期で大きな違いは見られない
- ◆ 前期の結果を受けて後期で改善という期待した改善が効果とならず

85

### (8) 学習理解度調査

- ◆ 学習理解度に関するアンケート調査を1年生の後期の初めに1回、2年生に1回の計2回行い、成績不振の学生がどの時点からついていけなくなったのかを調べ、その時期の有効なサポート体制について検討し、教務委員会に提言する目的で実施。
- ◆ 第1回アンケート実施:平成21年11月7日(月)、回答学生数186名、第2回は平成23年2月に実施予定
- ◆ 第1回アンケート結果から、
  - 勉強に対する不安を持っているが、不安を持ちながら誰にも相談しない。
  - 勉強に対する不安を持つと、試験でも満足いく結果が得られない。

86

## Ⅹ 地域連携事業

- (1) 高知県工業会との連携事業
- (2) 高知銀行との連携事業
- (3) 南国市との連携事業
- (4) 県内3大学との連携事業
- (5) 平成22年度の萌芽的取り組み

87

### (1) 高知県工業会との連携事業 製造中核人材育成事業(平成17~19、22年度) (経済産業省の委託事業)

目的:県内の金属加工業の製造現場の中核となる人材の育成  
組織:高知高专が「管理法人」となり、「高知県工業会」と連携して、事業全体の組織(コンソーシアム)作り・教材開発・教育プログラムの計画と実施・管理・統括等を行なった。

- 【平成17、18年度】プラクティカル(実用)コースの6教科を実施。  
「工業材料と設計、及び材料試験」  
「CADと製図、及び演習」  
「加工技術と情報処理、及びNC加工演習」  
「生産工程の設計と生産管理、及び生産工程設計演習」  
「ドキュメント作成とプレゼンテーション」  
「企業間インターンシップ」

88

### 【平成19年度】「自立」し、「公開講座方式」として有料化。

- 4教科を実施  
「CADと製図」  
「工業材料と設計」  
「切削加工と情報処理」  
「加工と計測・制御」

### 【平成22年度】アドバンスト(管理職向け)コース(無料)

- 4教科を実施 ((社)高知高专テクノフェローと共催)  
「生産工程の設計」  
「生産と品質管理」  
「生産と環境保全」  
「生産と構造強度設計」

89

### (2)高知銀行との連携事業

高知銀行と平成18年2月2日に「連携協定」を締結

#### 【平成18年度】

1. 高専教員シーズ説明会(平成18年5月19日)  
参加者:高知銀行各支店支店長等
2. 高知高专研究室開放見学会(平成18年10月27日)  
参加者:企業3社、高専職員
3. 合同企業訪問(技術相談)7社
4. 高銀より研究助成金交付 25万円

#### 【平成19年度】

1. 高専教員シーズ説明会(平成19年7月24日)  
参加者:高知銀行各支店支店長、企業9社
2. ニーズ・シーズのマッチング事業(2社企業訪問)
3. 連携公開講座「こども金融・科学教室」(平成20年3月22日)  
参加者:小学生27名、保護者25名
4. 高銀より研究助成金交付 60万円



90

**【平成20年度】**

1. 高専教員シーズ説明会（平成20年9月29日）  
参加者:企業15社
2. ニーズ・シーズのマッチング事業（3社企業訪問）
3. 連携公開講座「こども金融・科学教室」(平成21年2月28日)  
参加者:小学生35名、及び保護者
4. 高専より研究助成金交付 60万円

**【平成21年度】**

1. 高専教員シーズ説明会（平成21年10月22日）
2. ニーズ・シーズのマッチング事業
3. 高専3年生を対象に講座を実施「企業で求められる人材とは」  
高専人事部(平成21年9月10日)
4. 公開講座「こども金融・科学教室」(平成22年3月13日)  
参加者:小学生43名、及び保護者
5. 高専より研究助成金交付 60万円

91

**【平成22年度】**

1. 高専教員シーズ説明会（平成22年11月8日）
2. 高専3年生を対象に講座を実施「社会人としてのマナー」  
高専人事部(平成22年9月7、14日)
3. 公開講座「こども金融・科学教室」  
橋原町:平成22年7月10日 参加者:小学生25名、及び保護者  
高知市:平成23年3月12日(予定)
4. 高専より研究助成金交付 40万円(予定)
5. 高専実施事業への後援  
四国地区高専シーズ発表会:平成22年8月23日  
高知元気プロジェクト:平成22年12月2日
6. 児童養護施設の子供達への星購券商品券の提供

92

**(3)南国市との連携事業**

南国市と平成20年3月3日に連携協力協定締結

**【平成20年度】**

「高知高専教養講座」

◎南国市と共催し、高知高専の教員が市民に対し実施。

1. 「熟年対象・海外旅行用のやさしい英会話:Part 6」
2. 「寺田寅彦の愛した「音楽」Ⅱ」
3. 「英国における母語教育の歴史と問題点」
4. 「アジア世界への礎石—琉球から沖縄へ—」
5. 「人間存在の気分と言葉」
6. 「女性の再就職状況—イギリスと日本—」



「南国市からの委託事業」

1. 教員対象の実験講習会「電子顕微鏡でミクロの世界を観察する」
2. 夏休み子供教室  
「理科教室:紙モデル住宅をつくらう」「小学生ロボコン」
3. 土佐のまほろば祭に出展  
「化学の不思議探検」  
プニャプニャ! スライム! があらわれた! / ふわふわシャボン玉 / マジックレター / 紙コップロケット / 空気の衝撃! 空気砲!

93

**【平成21年度】**

「高知高専教養講座」

◎南国市と共催し、高知高専の教員が市民に対し実施。

1. 「能は饒舌!?～能、大いに源平を語る～」
2. 「やさしい英会話」
3. 「英独の学校小説における子ども観」
4. 「《近代》の本質と技術の問題」
5. 「東アジア世界の近代と国際関係」
6. 「寺田寅彦の愛した「音楽」Ⅲ」
7. 「働き方と年金・老年期の暮らし—他の先進国と比べて—」

「南国市からの委託事業」

1. 夏休み子供教室  
「電池のない電気自動車をつくらう」「小学生ロボコン」
2. 土佐のまほろば祭に出展  
「化学の不思議探検」  
業販標本をつくらう!! / ひかりのアクセサリ～キラキラ☆  
化学発光するペンダントをつくらう～ / プニャプニャ!  
スライム! があらわれた!

94

**【平成22年度】**

「高知高専教養講座」

◎南国市と共催し、高知高専の教員が市民に対し実施。

1. 「やさしい英会話 I & II」
2. 「しつけの力(?)」
3. 「ことばを鑑賞する」
4. 「生の理解と表現 -ドイツの哲学と日本の短歌との出会い-
5. 「寺田寅彦の愛した「音楽」Ⅳ -寅彦先生の愛唱歌-
6. 「現代社会の子供」
7. 「少子化とその対策を考える -ドイツの哲学と日本の短歌との出会い-
8. 「能は饒舌!?～所作の面白さ～」

「南国市からの委託事業」

1. 夏休み子供教室  
「めざせ!! こども防災士」「小学生ロボコン」
2. 2010土佐のまほろば祭り  
「化学の不思議探検」  
業販標本をつくらう!! / ひかりのアクセサリ～キラキラ☆  
化学発光するペンダントをつくらう～ / プニャプニャ!  
スライム! があらわれた!

95

**新たな南国市・高知高専連携事業（平成22年度）**

実施体制図:

```

    graph TD
      A[連携協議会] --- B[専門部会連絡会]
      B --- C["(社)高知高専  
テクノフェロー"]
      B --- D[防災・環境  
(資源・エネルギー)  
専門部会]
      B --- E[新産品・新技術・新事業  
専門部会]
      B --- F[教育支援・イベント  
専門部会]
  
```

(上記の3つの専門部会を設け、現在作業を実施中である。)

96

(4) 県内3大学(高知大学、高知女子大、高知工科大)との連携事業 (平成20年～)

1. 高知高専は「小・中学生への理科教育支援」を担当し、出前授業や出前実験を実施

【平成20年度】

- ・「薬液標本を作ろう！」 香美市舟入小学校6年 (33名)
- ・「果物電池を作ろう！」 梶原町立四万川小学校6年(8名) など4件

【平成21年度】

- ・「顕微鏡の不思議」 高知市立第六小学校5年(29名)
- ・「てこのはたらき」 室戸市吉良川小学校5年(14名) など11件

97

2. 高知女子大主催の「4大学県民講座：自分らしく老いる」に参画

【平成20年12月20日】

- ・講演の部：「高齢者やリハビリ療養者の運動機能“見える化”の重要性」
- ・ポスター展示の部：「移動時の安全性を高める技術の開発 - 残像現象を利用した広域照射ライトー」

3. 同主催の「4大学県民講座：自分らしく老いるPart II」に参画

【平成21年12月20日】

- ・講演の部：「青組しよ症やアルツハイマー型痴呆症などに有効な食品成分のお話し」
- ・ポスター展示の部：「FM防災ラジオシステム」

4. 同主催の「4大学県民講座：自分らしく生きる」に参画

【平成22年12月12日】

- ・講演の部：「女性の生き方」の変化と男性、親族社会の対応
- ・ポスター展示の部：「能の主人公たちの生き様」

98

X 外部資金 (平成17～22年度)

- (1) 科学研究費
- (2) 共同研究費
- (3) 受託研究費
- (4) 寄附金
- (5) 科研費を含む外部資金の合計
- (6) その他の大型資金(補助金・助成金)
- (7) 技術相談件数
- (8) 外部資金獲得の現状

100

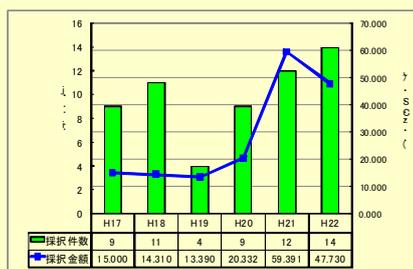
(5) 平成22年度の萌芽的取り組み

- (1) 高知高専、高知高専校友会と高知高専テクノフェローの共催、「卒業生の集い」を開催(平成23年11月6日)
- (2) 高知高専、長岡技術科学大学と高知高専テクノフェローの共催、「高知元気プロジェクト 高知を元気に！～産業や生活の活性化のヒント～」を開催(平成22年12月2日)
- (3) 高知高専と広島大学総合科学部・大学院総合科学研究科、「教育研究交流に関する協定」(平成22年11月1日)
- (4) 南国市と高知高専で官学共同教育プログラム覚書締結(平成22年10月1日)



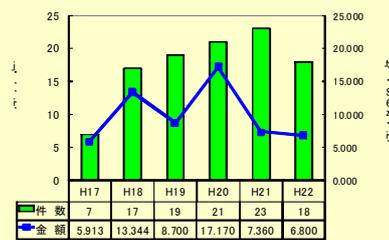
99

(1) 科学研究費



101

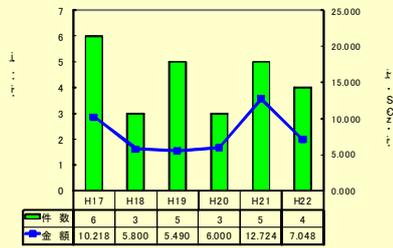
(2) 共同研究費



H22の数字は12月末現在

102

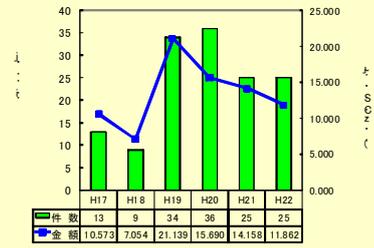
### (3) 受託研究費



H22の数字は12月末現在

103

### (4) 寄附金



H22の数字は12月末現在

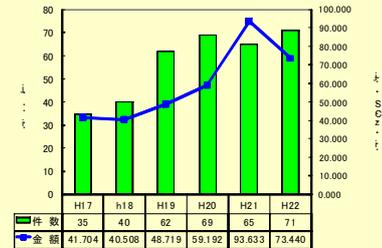
104

### (6) その他の大型資金(補助金・助成金)

プログラム名及び課題名	年度 (年度)	交付金額(概算) (単位:千円)	
1. 産学連携製造中核人材育成事業 金属加工分野における高い技能・技術と生産 管理能力を備えた中核人材の育成	17-18	28,000	経産省
2. 現代的教育ニーズ取組支援プログラム 創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発	17-19	72,000	文科省
3. 産業技術研究助成事業 オゾンを用いたレジスト剥離に関する研究	16-18	50,000	NEDO
4. 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学 教育推進プログラム 自己成長力を加速する次世代ICT活用教育	21-23		文科省

106

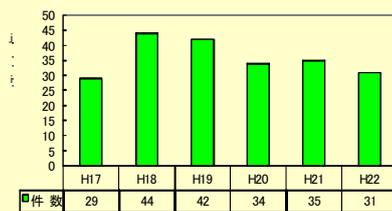
### (5) 科研費を含む外部資金の合計



H22の数字は12月末現在

105

### (7) 技術相談件数



H22の数字は12月末現在

107

### (8) 外部資金獲得の現状

- 科学研究費, 共同研究など外部資金獲得は件数, 金額共に増加傾向
- 科学研究費の申請者数は53%, 裾野を広げることが求められる
- 教育機関としての役割と外部資金獲得との両立が課題

108

### 3. 審議事項

#### 高知高専の将来構想(中期計画)の着実な実施

世界の経済社会のグローバル化が進展する中、日本の経済は依然として厳しい状態に置かれており、大学生の就職内定率も低迷しています。このような中、高知高専を始め高専の就職内定率はほぼ 100%と企業側から高い評価を得ています。これは5年一貫教育により培われた高専卒業生の理論と実践力、寮生活などを通じた人間形成努力などが高く評価された結果であると考えられます。

しかし、高知高専を巡る情勢に鑑みるに、一層高知高専が魅力ある高専に脱皮していく必要があると考えています。今後、日本の人口は減少し、その上少子高齢化が一段と進行することは間違いありません。特に高知県の人口減少は止まらず、中学生人口も数年の内に7千人を切り、いずれ5千人台になると予想されています。また、これからはグローバルな競争に勝ち抜く意志と努力が求められる中、しっかりとした基礎の上にアイデアと行動力を備えた能力ある技術系人材を排出していくことがますます重要となってきました。科学が細分化する中で、技術は経済社会の様々な課題を解決するためのものであり統合力も重要な観点となってきました。一方で、大半の高知高専入学者の出身母体である高知県の公立中学生の学力は全国最下位レベルで憂慮すべき状況にあります。以上のような状況の中で、今後、高知高専としては、ポテンシャルのある学生を集め、社会経済のニーズにあったしっかりとした教育を行い、学生にとっても、社会にとっても、また教職員にとっても、より魅力ある高専となっていく必要があります、そのために全力を尽くしていきたいと考えています。

こうした考えを持ちつつ、高知高専においては、第1期に引き続き平成21年度から始まった第2期中期計画期間においては、別添の高知高専の将来構想(中期計画)に基づきその着実な実施に努めてきているところでありますが、平成22年度年度計画の実施状況などに対し、参与の皆様方からの忌憚のないご意見を頂戴し、来年度以降の計画を実施するにあたっての参考にいたしたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。



## 4. 高知高専参与会における質問・意見等

### 【若原 委員長】

それでは、予定の時間になりましたので、審議を始めさせていただきたいと思います。

まず審議を始めさせていただく前に、皆さんのお手元にございます高知高専将来構想中期計画、こちらの高専機構の中期計画に従いましてここに書き下ろされました高知高専の将来構想、それと平成 22 年度の計画、それから進捗状況が記載されてございます。この中で大括りのところの計画のところに従い、順番に皆さまのご意見をお伺いする。あるいは、先ほど、教務主事の藤原先生からありました説明につきまして質問していただくという形で進めさせていただきたいと思います。

まず、最初に大括りのところの目標を、最初にざっと読ませていただきます。

1 番といたしまして、教育に関する事項。(1) 入学生の確保、学生の募集活動、女子学生確保、入試後の改善など。こういったものが1つ挙げられております。

(2) ですが、教育課程の編成ということで、学科再編、大括り化、コース制の導入、専攻科の充実など、これは、大括り化に関しまして、まだこれからということのようですので、いろいろこちら辺でご議論いただきたいと思います。それから、

(3) 優れた教員の確保、特に採用方針、女性教員の採用、他機関との交流、FDなど、ということで、こちらが多岐にございますので教育の質の向上のために必要な事項と考えますので、ぜひご意見をいただきたいと思います。

(4) ということで、教育の質の向上、改善、自己点検評価、J A B E E 認定、共同教育、企業人材の活用ということで、皆さま、いろいろな背景をお持ちでございますので、特に大学からの方には、J A B E E についてご意見いただきたいと思います。あるいは、企業からお越しの参与の方には、共同研究とか企業人材の活用などについて積極的にご発言いただきたいと思います。

(5) 番目、学生支援、生活支援ということで、メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育などございますが、こちらに関しましても今日の学生さん、特にメンタル面で不安を抱えている。こういったケースが散見されますので、やはり学生さんが充実した学生生活を送って、しっかりとした社会人として技術者として社会の役に立つためには心のサポートもしっかりしたいと思いますので、現状の計画につきまして、さらに補強すべき体制等ございましたらご意見をいただきたいと思います。

(6) で教育環境の整備、活用、こちらにつきましても、ぜひお願いしたいと思います。

大枠の2番、研究に関する事項ということで、外部資金獲得、産学連携、知財管理等ということでございます。こちらにつきましても活発な活動をされているようですが、さらに活性化するうえで必要と思われることがございましたら、適宜お願いしたいと思います。

大括りの3番目。先年度、参与会の報告でもございましたが、社会との連携、国際交流に関する事項ということで、ここでは特に地域従事者育成の貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受け入れ等、非常に大変多岐にわたる、しかも重たい問題がたくさん挙がってございますが、こちらにつきましてもいろいろご議論いただきたいと思います。

大括りの4番です。管理運営に関する事項、危機管理体制、教職員の服務監督、健康管理、職員の研修、人事交流、こういったところにつきましても、企業等での経験を踏まえていろいろご議論をいただきたいと思います。

最後に5番。業務運営の効率化に関する事項ということで、一般化への仕組み、随意契約の見直しなどということで、昨今の社会全体の動きを踏まえた取り組みにつきましても計画が立てられてございますので、コメントをいただきたいと思います。

それでは、1番目に戻りまして、まず入学生の確保ということにつきまして、ここでは、いろいろ広報活動を推進する、女子学生の確保を増やしたい、入試制度の見直し、という

ことで、説明のほうでもいろいろ新しい推薦制度の実施、それから改善、そういうことが説明にございましたが、いかがでございましょうか。

ご発議ある方、ぜひ、挙手をさせていただきたいと思います。

#### 【池 教育次長】

失礼いたします。県の教育次長の池でございます。

入試制度の話もございますので、最初に口火を切らせていただきます。まず、高専の校長先生をはじめ教職員の皆さまには、日ごろ教育にご尽力いただきまして、ありがとうございます。

今、全国学力学習状況調査で中学生の成績が46位であるというお話もありましたので、まず初めに、そのお話を、少しさせていただきますと思います。

ご案内のとおり平成19年に全国学力学習状況調査というのがございまして、小学校が37位だったと思います。中学校は46位。国語と数学の平均が46位、しかも、45位の大阪からはるかに離れて、特に数学において沖縄と高知が、地域間格差があるといわれるぐらい大きな差で、大変衝撃を受けました。それから3年、緊急プランを立ち上げて実行してきました。その結果、小学校は21位ということで、全国平均を超える形となり、全国からも少し注目をされているところでございます。ただし、中学校はなかなか根が深くて難しい問題がございまして、国語については大阪を抜いたのですが、数学がまだもう少しというところで2教科平均は全国平均にかなり近づいているものの46位となっております。今、小中学校の教員にはかなり努力をさせていただいており、今後もう少し上昇をさせたいと思います。来年度は全国水準に、その後は、最終的には日本一も目指して頑張りたいと教育委員会も思っておりますので、小中高連携してよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、本題に戻りますが、入試の関係でございまして。どうやって生徒を集めるかということは、県立高校の問題でもございまして、私が思うに、高専の良さというのはやはり進路だと思います。高専には何物にも代えがたい進路実績があるわけですので、そこをもう少し前面に中学校のほうに宣伝をするということが大切だと思います。今、高校の新卒者の就職、それから大学を出ての就職というのは、大変厳しい状況にございまして。その中で、この100%就職という部分につきましては、もっともっと自信を持ってご説明をされたらいいのではないかと思います。それから、中学校の立場から見ますと、学科別に就職も書いていただいておりますが、学科別にどの大学の何学部へ行っているとかいうものも詳しく表記していただければ、学科を選ぶ際の迷いがなくなると思ひます。「この学科へ行けばこういう就職先があったり、こういう大学へ進んだりできる」というのがより分かる形にする事が大切だと思います。

それから、入試制度については、県立の高校の問題がございましてご迷惑かけております。今言った学力向上の観点もあまして、それまでは前期試験で定員の50%推薦方式でございました。それでは中学生が勉強しなくなるということで、前期試験で定員の8割を募集し全ての学校・学科で、5教科の試験を課すという、大きな制度変換をしました。後期も3教科の試験を科しています。これは推薦入試が駄目だという意味ではなくて、学校のあたり前は学ぶことですので、それをきちんと評価するということを念頭に置いて改革をしたものです。

入試の都合で8割推薦に高専がされたということですが、中学校の推薦だけではなくてやはり、どこかで論理的な思考を問う問題を科するとか、いわゆる5教科の学科試験ではなくてそんなに負担にならないような総合的な出題を課すとか、そういうご工夫をされたら、いい生徒さんが選べるのではないかと、思ひます。特に言語力というのは、これから社会に出たときに非常に大きな力になりますので、そういう意味の論理的思考とか言語力とかを問う適性問題といひますか、そういう教科を超えた質問などを推薦入試の中にも課すというようなことがあっても、そんなに受験生が減るといひようなことにはならないし、

高専にとってもプラスになるのではないかと思います。

すみません、長くなりましたが、1番の分野ではそういう意見を持っております。

**【若原 委員長】**

ありがとうございます。

今、いろいろ、高校のほうの入試のところ、単純に8割ということではなくて、推薦を廃止して学力重視にしたということでレベルアップを図っているということでございますので、高専のほうも、少しそれを参考にさせていただいて、高専の入試機会というのは、全国一律だから変えられないのですか。

**【船橋 校長】**

入試は、推薦と、学力がありまして、全国的には推薦は50%まで、50%以内の推薦、残りは学力ということ。基本的には、推薦は50%以内という制度は共通です。ただ、その中で推薦は何%にするかということはそれぞれの学校が決めることができます。

それから、今、池先生がおっしゃった推薦の中でも総合的な例えば論理的思考、言語力とか、そういうものを問うようなことはできないかという、それはこれからちょっと検討したいと思っておりますけれども、可能ではあると思っております。今は、学校側からの調査書とか、あるいは面接、作文、そういうものでやっておりますけれども、学校によっては、適性検査、今、おっしゃったようなことに類するものだと思いますが、適性検査のようなことをやっている学校もあると聞いています。そんなことも、私どもも、有り得るかなということからは前から考えておりましたので、県の動きも見ながら考えてみたいと思っております。80%推薦というのは、実は、私自身もちょっと危機感があります。全体の8割を学力試験を通さない形で入れるというのは、私自身も理事長の前でそういう話をしたことはございます。ですから、今言ったようなことも重々念頭には置いておりますので、また検討をしたいと思っております。

それから、先ほどおっしゃった各学科ごとの進路を示す、これはすでにやっております。オープンキャンパスとか学校説明会の場では、各学科ごとの進路などについては、各学科がどこの大学に行っていて、どこの会社に勤めていることはすでにやっておりますが、もし物足りなければ、少し考えて強化したいと思っております。

それから、「就職、進路についてもっと自信を持って」というお話、まったくそのとおりでございますので、就職率ほぼ100%というのは1つの売りでもありますので、そこについては自信をもってやっているつもりですが、ひょっとしたら少し中学生側にとって、まだわれわれの自信が見えていないのかもしれないかもしれません。もっと頑張っていきたいと思っております。

**【若原 委員長】**

そういう意味では、中学校から見て、現状の取り組みで十分伝わっているかご意見賜りたいと思っております。渡部先生。

**【渡部 参与】**

失礼します。本当にご迷惑をかけております。今日はなんか言いにくいのですが、いくつか気になっていることがあります。

1つは、やはり生徒さんに来ていただくという面で、ますます高専にとって厳しくなるだろうと思う条件がございます。いわゆる公立高校の高知県の学区制が撤廃されていきます。今までの工業系の学校とかはすでに学区制がなかったわけですが、やはり一定、高知市以外のところでは、高専のブランドがあったと思います。そういうところに行かせたい、その背景には学区制があって、市内の普通高校には枠があって入れない。同じような学力を保証してくれる学校はどこだと考えたときに、高専だったと。ところが普通高校も

その学区制がなくなってくると、郡部の生徒もそちらに流れていくということは、十分に考えられます。

それと、本校はお膝元ですので、子どもたちは十分高専という学校の魅力も感じています。ですが、実際入試が始まると、今年何名か高専受けると言っていたのに願書を出さなかった子がいます。「どうして？」と聞くと、「やはり学力的に不安がある」と、私はある意味、それは正しい自己理解だなというふうには思います。やはり希望を持って進学することは大事なことであるけれども、先ほど言われたように、その学校が求める学力や耐える力を持ってなかったら、挫折とかにつながってしまいます。

先ほどから言われるように、高専という学校は、教育機関であると同時に、研究機関であると思います。だから、高知高専が例えば産学といいますか、一緒になって素晴らしい発明をしている、業績を残しているということになれば、それなりに何もコマースリなくても高知高専の存在意義が大きくなっていくわけです。ところが、肝心のそうした先生方の労力の大半を、子どもたちの補習とか、別の部分に振り向けないといけないという、悪循環のスパイラルに陥っているわけです。では、その原形をつくっているのは誰だと言われると、私どもです。本当に申し訳ないと思っています。ただ、私すごく危機感を持っているのは、いわゆる努力も大事にしていけないといけませんし、無理な要求を子どもたちにしてもいけません。

今世界はすごく小さくなっていっています。グローバル化という言葉で言いますけれど、もっと厳しくて、あっさり言うと、いわゆる日本という小さなエリアの中だけで子どもたちの教育観を語っていたら、本当に競争に負けていきます。なぜかといったら、この、12月に文部科学省の若いキャリアが、研修で南国市に来ました。そのときにしばらく校長室で話をしました。その方は義務教育じゃなくて大学の編成局の担当の方でした。今一番困っているのは何かというと、大学生の就職です。原因の1つに企業が日本人を採らなくなった。結局、日本の学生さんが競争している相手は、世界中の学生さんと競争しているという時代になってきたわけです。

では、そういう中で、私たちが考えないといけないのは日本人として本当に育てていくべきものは何だったのか。もう一度、社会全体で考えていけないといけません。いつまでも甘いことを言っていたら、やっぱり育たないということです。少し長くなりましたが、そういう意味で、私はある意味高専は高専の学習レベルとか誇りを絶対に失ってほしくない。その部分は維持しながら、頑張っていたきたい。

そう思ったときに、先ほど言いましたが、うちの生徒が何人か受験をあきらめたわけですね。そういう学校であってほしいとも思いますし、逆に言えば、そういう子どもたちが入っていったときに、何百人もいろんな生徒を抱えたときに、1人の落後者も出さずにやっていくことが、本当にいいことなのか。というよりも、そういうシステムが本当に可能なのか。そう言われたら、私、中学校の校長ですけど、毎年実際、全員生徒に国が定めている学力を付けているのかと言われたら、できておりません。悲しいことですけど、一生懸命そうなるようには努力はしています。ですから、程度問題の話なのではないのだろうか、というふうなことを思います。基本に戻りますが、高専の存在意義はこうした専門教育をしっかりと付けていくことであるというふうに思っています。そのためには、先生方にしっかりと研究結果といいますか成果を出していただくこと以外にないと思います。そういう意味では、内部的な競争の激しさは熾烈になっていくだろうと思います。変なことと言いましたけれども、そういうふうに考えます。

それで、入試のことに関しては、県の幹部もいますので、言うとな怒られますけれども、ネコの目のように変えられては、それは本当に困ります。いつの間にか、前期でほとんど採るようになっていきます。逆に言うと、ほとんどの生徒さんは2月の始めでもう入試が終わっています。本来的に義務教育は中学校3年間ですから、3月まで教育するのが本来的な期間なのに、そうはなっていないわけです。どこかで歯車が狂ったのではないのでしょうか。だから、そういう意味で、渦の中に高専という自由に受験日が設定できないところが、あ

おりを食らっているのだと思います。

学校現場としては、子どもたちもそうですけど、一日も早く進路先の確保ができるということが、優先されていきます。ですから、こういうシステムだと前倒しで確保していきます。つまり、殆どの生徒が、後期を受けてないのです。特にそういう傾向は、高知市以外の地域の学校は多いだろうと思います。

ですから、そういう意味で痛しかゆしだとは思いますが、生徒確保という面では、やむを得ない状況じゃないかなというふうに思います。

それと、「就職面から、ここを選びます」という子は本当にいます。今、思っている以上によく社会を見ている人たちは、子どもたちの進路を考えたときに、「より確かな学校」と思っていることは間違いないので、自信を持たれて、「こういう進路がありますよ」ということを発信していくべきだろうと思います。

それとともに、高専自体の成果を地震予知なんかで、頑張ってください先生がいるということは、誇りです。ですから、高専生自体に、高専に来たことを誇りに思っている生徒ばかりになるように、頑張っていたきたいなというふうに思います。

**【若原 委員長】**

はい、ありがとうございます。

ほか、特に広報関係につきまして、何かご発言あれば賜りたいと思います。時間もありますので、もし、ご意見がありましたら、後でお願いしたいと思います。

それでは、教育課程の再編に移りたいと思います。ここで多分一番大きな問題は大括り化ということになると思います。藤原先生の説明の中でもいろいろメリット・デメリット、特に先生方の意識では専門に対する意識を醸造するのは難しいなど。教員側からのコメントもありましたし、学生側からもいろいろ賛否両論があったと思います。これにつきまして、現場で、例えば技術者を使われる立場の方からも、ご意見をちょうだいしたいと思います。

河合さんいかがでしょうか。

**【河合 参与】**

四国電力の河合でございます。

やはり技術系の学生さんは専攻の科目をお持ちであり、ただ、それが企業に入りますと、例えば管理的な仕事でありますとか、必ずしも学校で習ったような専門的な科学的なことに携わらない人が多い。むしろそちらのほうが多いのかもしれない。とは言いながら、やはり学校で勉強されるからには、これは私の考えなのですが、専門でやられたところはきちっと学力をお付けになる、それから、もちろん一般教養でも同じですけども、きちんとした知識なり学力を付けて、それがあって初めてオールマイティーというか、ほかに応用が利くのではないかというふうに思っております。

それと、そのことと学校の教育、高専での教育とどう結び付くのか、よく分からないところはありますが、1つ1つやられることをきちっとマスターしていただいた方が、やはり社会に出ても役に立つ人間になるのではと思っております。

以上です。

**【若原 委員長】**

はい、ありがとうございます。

教育の現場で大学生を教えておられる立場として、木村先生いかがでしょうか。

**【木村 参与】**

高知工科大学の木村です。

いろいろ聞いていて、高専の先生っていうのは、まるで小中学校の先生から大学の先生

まで、いろんなことをやらないといけないので大変だなんていうのが、本当正直な実感です。教育、補習、課外活動、進路指導も、ましてや、今、研究成果も出せと。これは、かなり大変な、オールマイティーな能力を要請されていて、非常にご苦労されているなんていうのが印象です。

今の入学のことについては全くの素人ですがけれども、私の経験から踏まえますと、中学3年を終わった段階で自分の進路、将来の進路を全部決めるというのは、非常に中学生に対して酷ではないか。先生方として教育しやすさからすると、もう決めてもらって、「この部分が機械工学科」「この部分が電気」としているのがやりやすいかもしれないが、中学生のほうからすると、自分が将来何に向いているか分からないのではと思います。私が高校3年卒業のときでさえ、何をやったらいいか分からなくて非常に悩みに悩んで、最後は工学部に行ったのですが、それでも失敗したという感じをもちますと、もう少し弾力性というか柔軟性、行ってみなければ違う方向に転換できるという柔軟性が必要ではないかなという感じがいたします。特に中学を卒業して、もう「機械工学科に入ったから機械だ」というのは少し酷な感じがします。入学後でもあるいは入学時でも、もうちょっと弾力的なシステムが必要なのではないかなという印象を持ちました。

それから、最後にちょっと長くなりますが、国立高専という組織、これがどういう組織か、私は今日まであまりよく知りませんでしたけども、先ほど来のお話ですと、高知の地元の状況にいろいろ左右されるのに、何かあると高専機構の本部、東京にお伺いを立てないと駄目だと、こういう組織というのはもう少しばかり時代に合わないのではないかな。もう少し地方に独自性、独自の判断を委ねるような組織でないと、実情に合わないのではないのでしょうか。

それから、高専というのは非常にユニークな教育をされているということで、非常に重要だと思います。歴史的に見ると国立、国が工業化社会を支える中堅技術者を養成するために国策としてやってきたということだと思いますが、現状もそのままでもいいのかどうかというのは、もう一度よく検討して、地域の実情に合ったような制度設計というのが必要なのではないのでしょうか。そんな印象を持ちました。

#### 【船橋校長】

ありがとうございます。

まず、大括りについてなのですが、機構本部自体の中期計画について、少し説明いたします。お手元に機構本部自体の中期計画をお配りしてあります。

3ページ目になりますが、そのページの真ん中で第2期中期計画というのがありまして、(2)教育課程の再編等というのがあります。

ここでは、①のところで、産業構造変化、技術の高度化が時代の真に即した対応が求められる。それで、それぞれ地域性、特色、立地条件等に応じて個性ある多様な発展を目指しうんぬんと、このため、学科構成を見直し、地域の要請に属した新分野の学科の設置や、再編整備を適切に進めるとともに、というのが書いてございます。②のほうにも、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化や、構成などについて検討を行う。つまり、先ほど河合参与が、きちっとした専門性が重要だとおっしゃった。それを決して否定しているものではなく、産業界の需要、学生のニーズ、あるいは地域の特性とかを踏まえた形で大括り化をしてコース制にすることによって、即応できる。その中で、もちろん専門性はきちっと確保していくという制度をどう構築できるかということ、この機構本部としての22年度の年度計画の右側、一番右に地域や学生のニーズに応じた弾力的な学科編成とするため、学科の大括り化やコース制などを引き続き検討することになっております。決して専門性を度外視してという趣旨ではなく、専門は専門できちっとこれまでと同じようにやっていく。そこは少し誤解のないように、ぜひお願いしたいと思います。

それから、今、木村参与がおっしゃったことについて言うと、非常に重要な観点だと思

いますが、高専機構にすべてについてお伺いを立てろというような立場は全然取っておりません。基本的には51高専がありますから、共通的なことにしたほうがいいものがあるだろう。そこについては、各高専の先生方が集まって共通的なものをつくりましょう。しかし、地域でそれぞれ実情が違うでしょうから、そこは地域独自の路線を歩んでいいです。一応高専機構としてもそういう形になっています。

ただ、細部を見ていくと、確かに1つ1つ、これは高専機構の了解が必要というのはあることは確かです。なかなか難しい点ではありますけど、そこだけ少し申し上げておきます。

#### 【若原 委員長】

私がつかんでいる大括りとか構成の取り組みも、決して専門を軽視するわけではなく、やはり自分の専門、軸足をまずしっかり置いた上で、そこからどっちの方向に一步踏み出すか自分で考えるだけの力、それを身に付けさせることが、多分高専の教育の一番特色であり、一番の力だと思っております。

多様な進路がありますので、例えば、1年生の段階で、電気情報だとか物質化学だとか分けなくても、途中で必要であれば、コースを変更できるのが理想かなと思います。ただ、言うのは簡単で、実際現場で実習される先生方が非常に大変だと思います。豊橋技科大では、今年度学科再編しました。8課程あったものを5つに再編し各課程中にもコース制を導入しました。

電気電子と言いつつも最近は素材のことを研究することが多いですから、物質化学の先生にも入っていただいています。やってみないと分からないところは多分にあります。やはり第一に学生さんが「こういう方向行きたい」という希望に対して先生方がアドバイスをしながら、道を決めて行ける、しっかりしたアドバイス制度をつくっていただくというのが、こういう大括り化、コースに制にするときに一番大事ではないかなと思います。

#### 【木村 参与】

先ほどの説明で、入学のときの人気は物質で機械はあまり人気がなく、出口の就職のときの求人は機械・電気が非常に多い、と、入り口と出口が逆転していました。だから、中学生、受験生のイメージとして「機械は難しい」あるいは「こちらのほうが少し格好いい」というので入るのかもしれないですが、実際の求人はかなり旧来型の機械、電気はかなり求人が多いという資料になっていたと思います。そういう意味では、やはり中学生段階でそういうのが本当に決められるのか少し疑問に感じます。

#### 【若原 委員長】

遠山参与は何か。いろいろ社会情勢を扱っておられる中で、何かご意見をいただけますでしょうか。

#### 【遠山 参与】

高知新聞の遠山です。

少しさかのぼった広報のところから、先ほどご説明の中に、2カ月に1回ぐらい高知新聞に掲載とありましたが、本当はもっとPRすれば、載る機会は多分あるだろうと思います。

内輪の話になりますが、既成紙も、記者の数がそれほど多くはないので、なかなか学校関係も回れないというのが実情です。そういう意味では、売り込み方、私が言うのも変ですが、売り込み方次第のところがあります。例えば池先生とか渡部先生は、よくご存じだとは思いますが、うまく売り込めば必ず食い付くと思います。

特に、就職率100%については、多分、高知新聞にあまり出てない部分だと思います。工科大がほぼ100%というのは時々、県内、他大学との関係で出ますが、高専の100%と

いうのはおそらくそれほど高知新聞には出ていないと思います。うまく売り込めば十分記事になるお話ではと、今お聞きして思いました。

それと、少し渡部先生の論にも乗っかるような形ですが、高専の場合、やはり一定レベルの水準の学生を確保する。高専の目指すものから言っても、そこは大切にしてください。今日お話を聞いていて、あらためて思いました。

私事になりますが、高3のときに物理が分からなくなり、理系への進学を断念し、結局文学部へ行きました。本当は工学部へ行きたかったのですが、どちらかと言えば工学系の方が多いうらやましいなという部分もありました。少し後の話にもなるのですが、例えば肝心なところの数学・物理あたりでつまずく子どもさんというのは結構多いだろうと思います。中学卒業のところで1つの選択をして、実際入ってみたら思った以上に難しかったというケースが、相当あるだろうと思います。最終的には本人の判断ということになるとは思うのですが、学校側としても大変だろうとは思っています。せっかく入学した子どもを何とかフォローして授業についていけるようにする努力というのは、本当大変だろうとは思っているのですが、それは是非やっていただきたいと思っています。

木村先生もよくご存じだと思いますが、大学が相当補習をやらないと、大学の授業にほとんどついてこれない学生がたくさんいます。これもAO入試の絡みだとは思いますが、高専でも同じ悩みがあるのだろうというふうに思います。そういう意味では、池先生のところで頑張ってくださいということになろうかと思っています。

#### 【若原 委員長】

はい、ありがとうございます。

この辺りは、最終的には現場の先生方が実際に実践していけるシステムを考えないといけないと思います。それと、もう1つ、当事者である生徒さんです。学生さんがそのシステムの中でやる気を出せるものをつくっていただくのが大事なかなと思います。決して学生にとって重荷を与えてもいけませんし、やろうという芽を摘んでしまうものでもいけないと思います。そこのところを最重要に考えていただきたいと思っています。私、高知県は住んだことがございませんので、この実情が分かりませんが、高知高専の学生さん、あるいは高知高専の卒業生が社会へ出て活躍できるというために十分なシステムというものを、時間をかけて結構ですので、考えていただきたいと思っています。

それでは、次のへ少し進ませていただきます。

ここからまた教育がずっと続きます。教員の確保、特に女性教員、それから他機関の交流ということです。この中では公開授業ですとか、教員の評価方法とか、ティーチング・ポートフォリオなど、いろいろ取組まれているようですので、これにつきましてご意見を少しいただければと思います。

#### 【橋詰 参与】

私は行政の立場として、行政の中へもちろん教育問題も入るわけでございますが、常に教育委員会に対して市長として言っていますことは、例の実力テストで、低い高いの問題もありますけれども、そんなに目くじら立てて、全国で、できるかできないかは別として、高い水準を目指すなどということはあまり……私の意見としてはですよ……考えなくてもよいが、できない子どもたちを底上げするということです。つまり、私は、実は少し驚いたのですが、この高専でさえ英語、数学のフォローアップをやって補習をしているというのは、非常に気の毒だと思います。新しい生徒が入ってきたら、「待っていました、いよいよこれから高等専門分野へ入りますよ」とすんなり行きたいのが、先生方の本音ではなかろうかと思っています。となると、せめてかなりのレベルまで上げるといいますか、力を付けるのは小学校、中学校ではなかろうかと、私はそんな気がいたします。これは高専の参与会へ来て、小中学校のことを言うべきではないかもしれませんが、小中でフォローアップがないといけないのではないかと、そんなことを常々思っております。

それと、先ほど木村先生が言われた、私も行政の立場の人間としていつも思うことですが、全国画一的に物事を考える。これは、行政に非常に多いわけですが、よく出てきていますのが、今の日本の農政です。昔からです。「北海道から沖縄までこういう制度にしますから」と必ず言いますが、そんなことできるはずがないのです。北海道の農業と、新潟の農業と、千葉周辺の農業と、ましてや四国、九州の農業は、全部違います。それを1つの制度で一くくりにするという、このやり方です。教育こそが、私はその学校学校の特性というものがあっていいのではないかと。特に高専は専門性といいますか、理数科系といいますか、特性を持って、「ああ、そういう分野だったら高知高専がいい」とか、「それだったら香川高専がいい」などというものがあってもいいのではないかと考えております。

話は戻りますが、フォローアップのことです。私は、それは非常に大事なことだと思いますが、現場を見てみますと、小学校の先生方も大変です。この最近の教育の変化というものを見ておきますと、この間は、国の、政府の補正予算で電子黒板。「これ、どこで使いますか」と聞くと、「まだ使える人はあんまりいないみたいです」と言っていました。国の、政府の補正予算で経済刺激だとかでそのような物を買います。それから、最近パソコン、それから英語教育、こういうことをやって、その上にまだ普段はフォローアップをするとすると、とてもじゃないですが、学校の先生は大変だと思います。ですから、その辺りをどのように解決していきながら、フォローアップは常にしていくという体制が取れば、高専の先生方に迷惑を掛けないで、「さあ、いらっしやい」と、「これから高等教育をビッシリやりましょう」ということができるのではないかと思います。

教育問題は、言い出すと果てがなく、学校がどうだ、家庭がどうだという問題まで言いますと、何日やっても問題の答えは出てこないわけですが、私はそのへんに何か問題、われわれ行政ができることがありはしないかというように考えます。

#### 【若原 委員長】

ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。教育、特に大きな問題があつて、ここでは多分、収束は絶対しないと思いますが、ここで話がある程度まとまりそうな話でということ。例えば、高専間の教員交流制度を利用した教員交流推進では、本年度は希望者なしということが少し気になりました。この辺り、特段の事情があつたのか、たまたま今年度はないのかということについて、一言コメントをいただければと思います。

#### 【藤原 教務主事】

これは、基本的には内地留学とか外地留学とか、そういう留学制度と、もう1つは、高専間の人事交流というのがありまして、そういう制度が作られたときは本校からも1名、それから本校へも1名受けるという交流がありました。その後、これから定常的にやることになると、なかなか活性化できないというのが現状です。

これは1つには、われわれが忙しいということがあると思います。1人抜けるとあとをどうするかという問題がありまして、そういうことから何か手を挙げにくい。かと言って、受け入れるほうだけを考えている。そういう虫のいい話はありませんので、そういうことで、マッチングと言いますか、交換という面でなかなか人事交流ができていません。その大きな原因は、やはり日常的に忙しいということ、それから、われわれの公務が手いっぱいであり、担任や、委員など多様なもので手いっぱい、なかなか抜けられないという状況があります。そのあたりを少し考えていくことが必要だと思います。内地留学も外地留学も含めて、本校の者が外へ出ていくのに、何か抵抗感と言うのでしょうか、少し他人に遠慮するとか、そういうものが以前に比べ大きくなっているような気はしています。その辺りは、仕事の軽減化とかを図っていかなければならないにもかかわらず、ますます多忙になっているという状況があると思います。

そういう背景の下で、なかなかそういう人事交流がやりにくいという状況です。これは

本校だけかも知れませんが、全体的にも活性化されて、どんどん行われているという印象は持っていません。かといって、それでいいというわけではないので、これも何か道をつけることを真剣に考えていく必要があると思っています。

**【船橋校長】**

今、藤原主事が言ったとおりですが、みんな忙しい。自分が本当はどこかの高専とか大学に交流に行きたいと思っても、なかなか言い出せないというのは確かにあると思います。自分だけその忙しさから逃れるようなことを思われるのも本位ではない。非常によく分かりますが、ただ、交流というのは非常に重要なので、確かに難しい面、忙しさの面はあるのですが、どこかで割り切らないといけない面が多分にあると思います。そこは今すぐどうこうは、私としても言いにくいですが、割り切らないといけない面があるという考えは持っています。

**【若原 委員長】**

一番危惧したのは、将来構想に書かれているので、何らかの手を打つ必要があると思います。私も活性化してないのは、よく知っています。全国の高専で活性化していません。とは言いながら、構想を書いていますので、何らかの対策を取る必要があると思います。例えば高専機構が推進している交流制度。両技科大との交換だと1年、高専間だと2年。1年というケースも最近聞いていますけども、それが長期は大変だということであれば、例えば機構に手を挙げて、「四国内でいいから、短期でやらせてください」というような提案があっても、趣旨からするといいのではないのでしょうか。何らかの方法を推進するような制度というのを考えていただければ、いろんな教育方法ですとか、地域の実情に合ったいろいろな取り組み例など、見ればいろんなアイデアが浮かぶと思います。皆さん、そういう研究をされていますので、実地を見ていただいて、ヒントをつかんでいただけるようなチャンスを是非つくっていただきたいと思います。

**【森下 参与】**

もう1つ教えていただきたいのですが、教員の採用方法はどのような形で行われているのですか。結構今、教員の希望者が多くて、確保に困るのかなという単純な疑問があります。

**【船橋 校長】**

基本的には公募です。必要な、例えば今いる教員が外へ出て空いたときには、教員を公募します。昔は一本釣りというものがあったようですが、今はすべて公募です。

それで、分野によって非常にたくさん応募がある場合と、正直言ってあまりない場合と、両方あります。公募があった後は、模擬授業をやります。来ていただいて、実際に学生に1時間授業をします。それで、われわれ審査員が、後ろで聞いて、その上で面接をして、不合格か合格かを決めるという形です。

人気があるかないかというのは分野によって随分違って、分野によっては殺到するような分野もありますし、分野によってはほとんど来ないという分野もあります。

**【若原 委員長】**

では、木村参与、お願いします。

**【木村 参与】**

高知工科大学でも補習授業をしないと1年生が追い付けないということで、かなり苦労して先生方はやられています。それなりの効果はあるみたいですが、ですから、小中だけではなく、高校教育もぜひということです。

それから教員のほうでは、いつも「学学連携が全然できてない」とご批判をいただいています。確かに、特定の先生、個人的なつながりはありますが、なかなかできない。なぜできないかという、やはり高専も含めてですが、分野の近い人というのは協力も重要なことですが、競争があります。ライバル視というか。ですから、かなり上のほうの力がないと、無理やり交流を促進しないとできないのではないかなと思っています。それから、地理的な問題もあります。ですから、先般、高知大学のある先生が「学学連携をもうちょっとやりましょうよ」と私のところに来ましたので、少しそれをやろうと思っています。

教員、大学全体ではないですが、本学の先生の中にも高専出身者がおります。高専との交流というのに非常に理解が高い先生が、少なくとも1人はいます。本日来るに当たって聞きましたら、高専の何か特定の授業を、ずっと持つわけにいないけれども、講義に行ったりすることができるのではと思いました。

それから、先ほどのデータを見ると、大学院で、高知工科大学にはほとんど来ていません。県外に行っていますが、高知工科大学の大学院もぜひ考えていただきたい。編入学は高知工科大学も増えたようですが、大学院はほとんどいないようですので、この交流を深めなければというふうに、感じました。

#### 【若原 委員長】

ありがとうございます。

補習という面では、全国の高専で時々やられているのが、上級生に下級生の面倒を見させるというのを実践されています。こちらも導入されているようですが、教えるということが一番実力つける意味では重要だと理解しています。非常にいい取り組みですので、ぜひ推進していただきたいと思います。

それから高専と大学との交流という意味で、実は豊橋技科大では、高専連携プロジェクトを実施しテーマを募集させていただいています。残念ながら高知高専さんは、あんまり応募していただけてないようございまして、その辺りも含めて、来年度の募集で見直しをかけたいと思います。もし何かご意見がありましたら、個人的にでもよろしいので言っていただければ、なるべくサポートさせていただきたいと思います。

では、時間もだいぶ進んできましたので、「教育の質の向上」に移りたいと思います。このところ「各企業人材の活用等」というところで、最近よく会社から講義に来る、あるいは会社と、企業と協働して技術者を育成するという取り組みがいろいろ全国各地で、高専さんを含めて行われていると思います。いろいろ外部機関のPDCAサイクルとか、校外実習とか、インターンシップ、専攻科生で導入されているようですが、受け入れをされた方から少しコメントをいただいて、さらに活性化するにはどうしたらいいかについてコメントいただきたいと思います。

北村参与、よろしいでしょうか。

#### 【北村 参与】

私、高専さんとの協働でいろいろ古くからやっております。最近は1つのテーマを決めまして、私の仕事は地中にくいを打ち込んでいくということで、非常に分かりにくい、見えないところですから、それをとにかく可視化をする。今まで私どもの業界では、見えないから分からない。発注側も施工側も、そういうことを当たり前にしてきた業界です。だからこそ、それをはぐって、めくって、中を見せるようにしなければならないということで、非常に大きなテーマでして、これからの成果が望まれておるとい分野です。鋭意これからも一緒にやっていくようにしております。

ただ、先ほどから話しております、やはり高専というのはそういうところに独自性があると、特徴があるということですから、私、企業側から見ますと、やはり「好きこそもの上手なれ」で、そういう工学的なものがまず好きか嫌いかと、それぐらいは分かっているといけないと思います。機械科を出てから、就職してから、「あんまり機械は好きやない」、

「だから音楽のほうへ行く」とか言って辞めるの者が、結構います。もう少し、自分が好きか嫌いかわがらひは判別ができないといけないと思います。なかなか決めにくいとはいふものの、工学系か文系かわがらひはやはり、小学校、中学校と、だんだん強めてこななければいけないということを感じます。

**【若原 委員長】**

そういった意味でどうですか。もっと現場に学生さんが行って、物を触らせるというのはいかがでしょうか。

どうぞ、渡部参与。

**【渡部 参与】**

それにかかわって、本当にそうだなと思います。

今、中学校でも、インターンシップではないですが、職業体験みたいなものが始まっています。実は今年から、3年間で1回だったのを2回に増やしました。2年生のときにまず、憧れているいろんな仕事に行ってもらって、その結果を踏まえて、3年生でまた新たなところへ行って、いろんな職業を体験してもらいましょうと、同じところへ行く子もおりますが、まったく違う職種を選ぶ者もおります。

先ほど少しパラパラと見ていて、幾つか、子どもたちの低学力ということを考えてときに、やはり考えないといけないことがあります。1つは、往々にして社会一般がいわゆる学力不振の生徒を、本当のところはその子の能力として見ている節があるのではないかと思います。それはまったく違うと思うのです。義務教育段階のことは本来的にまじめに取り組んでいけば、どの子にも身に付くはずです。ですから、思うのは、本当に粘り強く頑張れる、それから自分を信じて、自分が、興味があるんだというふう意識化して頑張れるのか、そういうところが大事だろうというふう思います。

ですから、高専入られても頑張れないという子たちがいるときに、それこそ新しい教職員のニーズとして、そういうふうな子どもたちが持っている、気付いてない、子どもたちの意欲化を図れるような、そういうアプローチというものがすごく大事なんじゃないでしょうか。直接的に「数学ができないから数学しましょう」「物理できないから物理やりましょう」と言う前に、「基本的に分からなくても、丸暗記でもいいからコツコツやってみれば理解できる。そこまで粘ろうよ。」というような姿勢が大事だと思います。

と言いますのは、今年少しばかり県のほうからお金を頂きまして、県外のしっかりしている学校の、小学校、中学校、本当に10校ぐらい回ってきました。そこで一番決定的に違うなと思ったのは、先ほど市長に申しましたけれども、はっきり言いますが、授業自体も質が高いのです。でも、同じようにやはり低学力の子どもがいるのですが、逆に全体の質をしっかりと上げているものですから、教職員が、勉強がなかなかうまくできない子たちに余裕を持って当たれるようになっていきます。つまり全体も上がってなくて、全部の子に当たらないといけない状況の中で下位層の子どもたちを上げようと思ったら、そんなことはできない。だから、言ってみれば、学級の中の平均点は高知県が60点、70点しか取ってないときに、その学級は90点取っているわけです。ですが、どこへ行っても集団ですから、高知県と同じように学力の苦手な子どももいるわけです。けれども、その子たちに十分に向き合っている時間があるのです。しかも、ことは学力の話だけじゃなくて。要はそうやって粘り強く取り組んでいくという姿勢が育っているわけです。

だから、いろんな面で見たとときに、やはりもう一度考え直す必要があるなというふう思います。そう思ったときに、義務教育、現状ではそういうふう子どもたちを育てることが十分にはできてないわけですから、そういうような高専内での教職員も、ある意味必要なのかなというふう思ったりもします。

**【若原 委員長】**

ありがとうございます。

もう1つ、お伺いしたいと思ったのは、企業人の活用ということですが、会社関係も、最近忙しいと思います。ですから、なかなか人材を高専に派遣して、現場の知恵を伝えることが難しいと思います。先ほど少しお伺いした、高専の1期生がそろそろ定年ということについて、定年になった方に来ていただくという取り組みをされている高専もあると聞いています。その辺りについて、高知高専でそういった取り組みが可能かどうかを、久保参与のほうから、コメントを頂きたいと思います。

**【久保 参与】**

校友会の久保です。高知高専には、協力体制をとっていますテクノフェローという団体がございまして、そちらのほうは人材情報を集めまして、地元の企業に技術協力をするという体制は取っております。実際には活動、実績も数点挙がっているということで、その報告はされております。

**【若原 委員長】**

逆に、高専のOBでこの地域におられる方で、もうすぐ定年になる、あるいは定年になられた方を高専内に招いて技術の伝承というか、そういう技術者マインドの伝承などの取り組みというのは、可能でしょうか。

**【久保 参与】**

それは十分あると思います。

**【若原 委員長】**

こちらでそういう取り組みをされている例はあるのでしょうか。

**【戸部 地域連携センター長】**

地域連携センターの戸部ですが、先ほど藤原教務主事のほうからも紹介があったと思いますが、製造中核人材育成セミナーというものを開校しております。4人の講師を準備しておりますが、その中の1名は、高知高専機械工学科卒業のOBを、県内ではないのですが、名古屋のほうから来ていただいてやっております。

将来的には、来年度以降も、本校の教員ですけれども、積極的にうちのOBの方に県内も含めて講師に来ていただいて、工業会とも連携しまして、いわゆる人材育成ということを積極的に取り組んでいきたいと思っております。これからますますOBの方が高知高専に講師として来るチャンスが増えてくると思います。

**【船橋校長】**

今の話は、中核人材のセミナーとか、企業におられる方に対してのセミナーです。それをOBの方も活用してという話です。

直接話し掛けるとか、そういうことがとても大事だと思っています。それは先ほど話に出ましたテクノフェローですが、実は北村会長が会長で、私は副会長をやっています。今、事務局のほうとも話をして、どうにかうまくできないか少し考えつつあるところです。

さっき説明があったかもしれませんが、この前、OBの集いを開催したときにもいろいろな話が聞けました。それから、長岡技術科学大学との合同のシンポジウムを実施しました。そのときにもOBの方に講師として来ていただいて、とても面白い話でしたので、そういう話はぜひうちの学生にも聞かせたいということで、うまくできないのかということとは少し考えてみます。

**【若原 委員長】**

将来の目標を立てる意味で、OBというのは一番の手本になる可能性が高いですから、ぜひやっていただけるといいと思います。ありがとうございます。

**【木村 参与】**

教育現場を全然知らないで勝手なことを言うのですが、これから高齢化社会で、OBばかりじゃなくて、退職した人がたくさんいるはずで、何らかの形で社会に貢献したいと思っている方がかなりいるのではないかと推測します。単発ではなく、授業は大変だ、教育や研究、それから課外活動が大変だと言うのであれば、そのような方にボランティアや若干の謝金にて先生方の負担になっているところを補完していただくことを考えられたらどうかと思います。

**【藤原 教務主事】**

先ほど来話がありますように、高知高専テクノフェローという組織があります。これは人材マッチングということで、県内の企業に本校のOBの技術を生かそうということで、ある程度そういう実績もごございます。

もう1点は、先ほど言った中核人材とか、そのようなカリキュラムを組んでやるときの講師ということで、それも1つ進んでいます。

現在、実際には、テクノフェローのほうの事務局とも相談して、先ほどOBに限らずという話でしたけど、取りあえず本校のOB人材バンクというものをつくっていただいています。それをこれからは高知高専でどのような支援をお願いできるかということで、来年度からはマインドを身に付けさせるということで、取りあえずは講演とかそういう形を、できれば何か定期的な講座、授業として考えたいと思っています。取りあえずはOBの経験談とかを、講演などという形で協力をいただく中で考えていきたいと思っています。

**【若原 委員長】**

ぜひ進めていただきたいと思います。

続きまして学生支援です。補習体制は、何回か再掲という形で出てきますが、一番大事なのはメンタルヘルスだと思います。これにつきましては、どなたかご経験ある方がおられましたら、少しコメントをお願いします。カウンセラーの方も来ていただいていると思うのですが、一番のネックは学生が行きにくい。あるいは少し精神的にネガティブになっている子は、研究室へも学校へも出てこない。呼びに行っても、「カウンセラーにかかってみなさい」と言うと、本人は「先生、私病気ですか」と言います。相談に乗って、心のうみを取ってあげたいのだけれども、本人がなかなか行ってくれないというところで苦勞しているところがあります。そういった体制づくりが一番大事だと思います。

高専では、保健室で保健婦さんが中心として、活動をされていると思います。

**【船橋校長】**

多分、どこの高専もそう、本校もそうですが、保健室の看護師さんへ最初に相談に来ます。次にカウンセラーです。実は、本校は精神科医の方も月に1度、来ていただいています。高専の中で精神科医が来ているのは、そんなに多くありません。カウンセラーは週に1度なのですが、来年度からは週に3日ぐらいになるように体制を整えたいと思っています。どこの高専でもそうですが、最初に対応する看護師さんが大変です。看護師さんが2人体制の高専もあるようですが、本校は1人です。いずれにしても来年度からはカウンセラーの人数を増やして、週1日が週3日ぐらいにはできるようにと思っています。

それから、もう1つは、これは学生相談室員と、カウンセラーと、担任とが、どううまく情報共有ができるかです。情報共有というのは難しく、これは個人情報のもので、なかなか難しいです。特に担任の役割は重要だと思っています。担任も非常に敏

感な人と、そうではない人もいます。ですから、なかなか難しい。少しずつ、特にカウンセラーの体制や高専機構のいろいろな研修などを活用して丁寧に対応することが大事だと思います。

**【北村 参与】**

先生方に対するカウンセラーはどうなっていますか。

**【尾崎 学生相談室長】**

学生相談室長の、尾崎と申します。

先生方のカウンセリングというのは、私の範囲外ですが、学生のほうのカウンセリングについての敷居が高いというのはおっしゃるとおりです。本年度は特に、1年生を対象にしまして、本校のカウンセラーの先生に講師になっていただき、もう少しカウンセリングを受けやすいような状況にするための、カウンセリングについての正しい理解について、というような講演も行いました。

実際にわれわれ相談室員は、毎日昼休み、放課後に詰めて、学生の相談にのるため待機しているわけですが、われわれのところにはあまり来なくて、先ほど校長が言いましたように、保健室の看護師さんのところに行って、それからカウンセラーの先生あるいは精神科の先生につながってということになっています。われわれ教職員のほうに対してもそういう学生相談についての啓蒙活動とか、そういったことが非常に重要になってきています。来年度以降、さらに充実するような形に検討していかなければならないと思っていますところ。

**【藤原 教務主事】**

それから、北村参与のほうから、教員に対するということですが、カウンセラーということだけではなく、健康管理面ということから産業医の先生がおられます。そのほかに学生を診る、学校医という先生もいます。学生のほうは主として学校医、われわれ教職員は産業医ということですが、健康上の問題などは、やはり窓口は看護師になります。看護師を通して、健康管理とか精神管理とかは産業医が相談あるいは窓口になってどこかの専門医を紹介するなどの対応を取っているというのが実情です。

**【北村 参与】**

あまりにも補習が多いというから、心配しています。

**【池 参与】**

公立の小中高も同じ問題を抱えております。

本当に今、虐待であるとか、いじめ・不登校の問題だけではなく、発達障害の生徒さんも高校にもおられます。この理解というのは、なかなか大変です。学生・生徒の気持ちをどれだけ理解するかが非常に重要になってくると思います。

たくさん研修会にも出られておられるようですが、やはり教育相談係がその仕事をするとか、カウンセラーがその仕事をするとか、あるいは保健室の保健師さんがその仕事をする、では解決できない問題であり、学級担任はもとより教科を教える方一人一人が、子どもたちについての学生理解とといいますか、生徒理解とといいますか、そういうものが進まない、この問題は解決できないと思います。

ですから、多分実施されておられるとは思いますが、この研修を受けた後、校内全体での教員に周知会とといいますか、学んできたことを校内研修で実施するとか。あるいは、カウンセラーの方に、子どもへの発問の仕方とか問い掛けの仕方みたいなものを学ぶ研修会などを進めていくことが必要です。これは、1人、2人、大学へ送るとか、カウンセラーが週に1回来て面談をするのでは、なかなか解決できない問題です。公立小中高、全部同

じ課題だと思いますが、教員全体にカウンセリングマインドを持った教員を養成するということがないと、なかなか解決しないのではないかと思います。

#### 【久保 校友会会長】

校友会の久保です。

この精神的に追い詰められたりするというのは、一番の基は成績だと思います。やはり悩むのは、どうしても落第するとか、そういったことが心配でとか、授業が分からない、そういったことが不安になっていくと思われま。今日のここまでの話ですべて言えるのは基礎学力が基になっているのかなと思っています。自分に向いていないと思うと悩んでしまいますし、ついていけないのはなぜかということが本人も分からなくなってくると思います。これまでに話でも向き不向きという話が出ていましたが、これも非常に重要で、皆さんのお話の中で、「好きこそ物の上手なれ」という話もありました。「そのとおりできる。しかし、本当に好きかどうか分からない」ということが問題です。

そうなる、いい学生を集めるためにはどうするかという、どんどん遡って行きますと、各学校への宣伝、広報活動が重要で、高専の説明をするときに、その学生さんが向き不向きに気が付くようなものがあれば、結果、学生の能力も上げやすいでしょうし、入ってからの失敗もなくなるのではと思います。好きな方が入ってくれば何とか努力もすると思いますので、やはりその辺り、一番の基礎学力の向上につながると思います。そうすると、カリキュラムの再編についても、皆さん、学力のある方が入ってくるとスムーズに進むと思います。やはり小中学生のときにいかに気付かせるかという広報活動に持っていけば、もしかしたら高専にマッチした学生が集まるのではないかと思います。

#### 【若原 委員長】

すごく大事なポイントで、非常に的を射た指摘だと思います。ぜひそのところ、広報に工夫をお願いします。創意工夫が好きの子を受け入れて、基礎学力を付けさせることで、新しいことができることを体験させる。どんどん自主学習の心を芽生えさせていければ、先生方の勝ちではないかなと思います。

私自身は大学で高専の卒業生を引き受けていますけれど、ペーパーテストで成績優秀でも、研究室へ入ったら全然駄目な子もたくさんいます。それどころか就職活動を始めた途端にうつになったという例も、何件か見えています。成績は駄目だけど、大学院に入って研究するとすごく力が出て、結局トップになり、博士課程へ行って、今、大学の研究員で留学しているというケースもあります。北村参与が言われた「好きこそものの始めなり」ではないですが、やはりそういう気持ちを持った子をぜひ伸ばしていただけるといいと思います。そうすれば多分、メンタルの問題もおのずと解決していくのではないかと思います。

#### 【森下 参与】

基本的には、専門教育機関とは言いながら、やはりまだ 15 歳で入学してくるわけですので、人間形成の部分が、最初やはり重要だと思います。カリキュラムがどうなのか分かりませんが、5年のスパンがあるというとならえ方をすると、最初の2年間ぐらいはそういう人間形成の部分に時間を割くカリキュラムがあってもいいのではと思います。その中で、今、先生方がおっしゃったような自己研鑽ということが芽生えてくるでしょうし、そうなる先生方も楽になると思います。

入り口のところですが、やはり推薦枠で入ってくる子は基本的に学力が劣っていると思います。最初そういう子が入学してきたときは補習体制が欠かせないというふうに思いますし、その補習に非常に先生方が時間を取られる、あるいは非常にご苦労されているというところにつきましては、何度かお話がありましたけれども、やはり退官をされている、本校だけに限らず、高校、中学、退官されている先生方でまだまだ教えたいという方もいらっしゃると思いますので、そういう方を活用されると、先生方のご負担も少なくなるのではと

思います。

**【若原 委員長】**

ありがとうございます。

**【遠山 参与】**

地域連携で、社会との連携のところで、公開講座等がありますが、この中で、小中学生の対象講座、16講座というのが22年度ですか、これ、実際、感覚としてよく分からないのですが、学校側から見られて多いのか少ないのか、どのような感じなのでしょう。先生方にとっては多分相当、負担の部分はあると思いますが、先ほどから出ています、自分の向き不向き、関心を持つという意味で、これを広げられるものならもっと広げて、拡大していくことができれば、それはイコールPRでもあると思います。

**【戸部 地域連携センター長】**

それで先ほど、藤原教務主事のデータにあったと思いますが、結構件数が多いと思います。かなり、先生方に負担があるというふうに考えております。

ある高専の話ですけど、少し言いにくいのですが、「あまり小中学校の教員の肩代わりをするな」という校長先生もいるようです。件数としては限界に来ていると思っています。もちろんいずれ中学3年になって高専を受けていただけるかもということもありまして、われわれの宣伝としても非常に意味があると思っています。ですので、あまり減らすことなく何とか頑張って、件数的には頑張っていきたいと考えています。

あと、南国市さまと協働でやっております教養講座というものがありますが、それは一般の市民の方を対象にしておりますので、小中、あるいは一般市民、あるいは県民の方とか、いろいろなレベルでそういう一種の公開講座的なことはやっております。

**【池 参与】**

広報の意味合いがすごく大きいと思います。ある意味、高専を知っていただくという部分もあり、先生方は大変だと思いますが、できれば学生さんも講師に出るってイメージですか、単位の問題もあるかも分かりませんが、そういうことは中学生あるいは小学生から見たら、「あまり年の変わらない学生さんがこれだけ詳しいことを説明してくれる」っていうことに対する感動みたいなものがあるのではと思います。少し授業時間数の問題で難しいかも知れませんが、そういうことも考えてられて、出られたらものすごい宣伝になるのではないのでしょうか。それを高知新聞に取り上げていただくとか、そうすればいいと思います。

**【戸部 地域連携センター長】**

現実には、特に高学年ですけど、4～5年生、あるいは専攻科生を大体帯同しています。やはりお兄さん、お姉さんが来てくれたということで、小中学生も非常に喜んでおりますか、積極的にお互いにいい関係ができたなと思います。

学生にとっても、普段は教えられる立場ですが、小学生に教えるという立場になって、学生にとってもいい経験だと考えております。

**【若原 委員長】**

最後に、社会連携。それから会議運営に関しては特段のご意見がなければ、スキップさせていただきます。特に、社会との連携について、今、いろいろと発言が出ていますが、ほかに、さらに何かありましたらお願いします。

【北村 参与】

斎藤佑樹君が大人気ですが、奥様たちがたくさん追っ掛けをやっています。どこがいいのかとインタビューすると、あいさつができる、謙虚で、偉そうにしないというようなことを答えています。技術ということと言わないのです。「技術がいいから、私は好きだ」と言わないのです。石川遼君も同じことです。まったく一緒ですね。「技術がいいから、好きだ」と言う人はいません。やはり基礎的な、基本的なことを教えると、技術も良くなるということです。やはりそういうことをちゃんと家庭と学校とで教えてもらいたいと思います。

【若原 委員長】

それについて、少し私の経験から。寮の生活というのは、あの年代で、上は二十歳、下は中学校出たての16歳です。今の子どもというのは、年の違う人と一緒に生活するというのは、家族以外めったにないものです。1年生は、今、全寮ですね。このシステムをうまく使っていただいて、できれば寮での人付き合い、社会生活の基本、教育というものをさらに推進していただければ、今、発言にありましたような、適切な電話応対ができる、あるいは目上の人を立てるとか、あいさつができるなど、社会常識が通用する技術者が育成できると思います。ぜひそこを推進していただきたいと思います。

ほか、よろしいでしょうか。

では、最後に、全般を通してここだけは発言しておきたいということございましたら承りたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、大体雑ばくな話になって、まとめをしていただく方、大変だと思いますが、非常にたくさんのご意見を頂きましたので、これを踏まえて来年度の計画を作ってください、より良い高知高専になるように推進していただけたら、われわれ参与も参与冥利に尽きるのではないかと思います。

きょうは、どうもありがとうございました。つたない進行で申し訳ございませんでした。

(拍手)

【沖 総務課長】

若原先生、長時間にわたりまして、ありがとうございました。

それでは、校長よりごあいさつを申し上げます。

【船橋 校長】

本日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございます。

言い足りなかったことが若干ありましたので少し言いますと、先ほど市長のほうから、「あまり学力が低いと目くじらを立てなくてもいいのではないか」という話もある。実はそういうことはよく聞きます。私もべつに「46位」ということをことさら大声を張り上げて言うつもりは全然ございません。それはそれで先ほど「かなり全国平均に近づいている」と池参与からのお話もありました。ただ、どうしても現場にいますと、先ほど来議論になっています基礎学力とか、そういうものがどうしても気になってしまい、ついこういう場になるとそのようなあいさつになってしまいます。そこら辺り、少しご容赦いただきたいと思います。

本日は本当にありがとうございます。さまざまな広報の話も私もずっと気になっておりましたし、それから基礎学力の話、地域連携の話、寮の話、本当に大所高所の素晴らしいお話を頂きました。年に1回でございますけれども、今回の議論を基にして、来年度の計画を作りたいというふうに考えております。

またこの場だけではなくても、個別に必要なに応じて先生方、参与の皆さま方にご意見をお伺いする機会もあるかもしれません。その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

## 5. 審議内容等(まとめ)

参与会において、各委員から出された意見は、概ね下記のとおりである。

### 教育に関する事項

- ・ 高専の良さは進路である。100%という就職率をもっとアピールしていただきたい。また、学科別に大学への進学状況もアピールのひとつである。自信を持って「将来の進路・選択肢」を啓発していくべきである。そのツールとしてマスコミ（高知新聞）を有効に利用していただきたい。
- ・ 推薦入試についても、論理的な思考を問う問題であるとか、総合的な問題を課す、教科を超えた質問を出すなどの工夫をすれば、より良い学生の確保ができるのではないかと。
- ・ 中学校を卒業して高専に入学した学生に「この学科に入ったのだから最後までこの学科」というのは少し酷なではないか？入学時や入学後にもう少し弾力的なシステムが必要ではないか。
- ・ 機構本部や高知県に入試制度の絡みもあるだろうが、高専として地域の実情に合った制度設計も必要である。
- ・ 学生が持っている、気づいていない部分の意欲化を図れるようなアプローチが大事ではないだろうか。
- ・ 各中学校への宣伝、広報活動が重要。高専の説明をする際に、その学生さんが向き・不向きに気付くような、そういう説明のできるものがあれば、学生の能力も上げやすいし、入ってからの失敗もなくなる。好きな分野に入れば学生の努力も向上すると思われる。小中学生の時にいかに気づかせるかという広報活動の持って行けば高専にマッチした学生が集まるのでは。
- ・ 寮での生活の中で、挨拶を含めた人付き合い、社会生活の基本を身につけ、教育をさらに推進してほしい。

### 地域連携関係

- ・ 高専のOBで、もうすぐ定年を迎える、あるいは定年を迎えられた方を高専に招いて技術の伝承や技術者マインドの伝承をするような取り組みを考えてほしい。
- ・ 退官をされた教員、高知高専に限らず高校・中学校を退官されている先生方でまだまだ学生に教えたいという意欲を持っている方もおられるので、そういう方の活用を検討すれば、高専の教員の負担が軽減されると考えられる。
- ・ 公開講座などにおいて、学生も講師として参加して欲しい。中学生とあまり年齢差がない学生が詳しく説明をしてくれるとういことに感動がある。

平成23年2月1日

参与会



委員長	豊橋技術科学大学高専連携室長	若原	昭浩
委員	高知県教育委員会教育次長	池	康晴
〃	四国電力株式会社常務取締役	河合	幹夫
〃	社団法人高知県工業会会長	北村	精男
〃	高知工科大学総合研究所長	木村	良
〃	高知工業高等専門学校校友会会長	久保	英明
〃	高知新聞社論説委員室委員長	遠山	仁
〃	南国市長	橋詰	壽人
〃	株式会社高知銀行代表取締役専務	森下	勝彦
〃	高知県中学校校長会代表		
	南国市立香南中学校長	渡部	哲夫



独立行政法人国立高等専門学校機構  
**高知工業高等専門学校**

〒783-8508 高知県南国市物部乙 200-1  
TEL (088)864-5500(代表)  
FAX (088)864-5606(総務課)  
ホームページ: <http://www.kochi-ct.ac.jp/>